



鬼神様と

巫女

80  
ページ

子宝祈願の生贄で  
来たはずなのに  
鬼の神様に溺愛される



こんにちは！

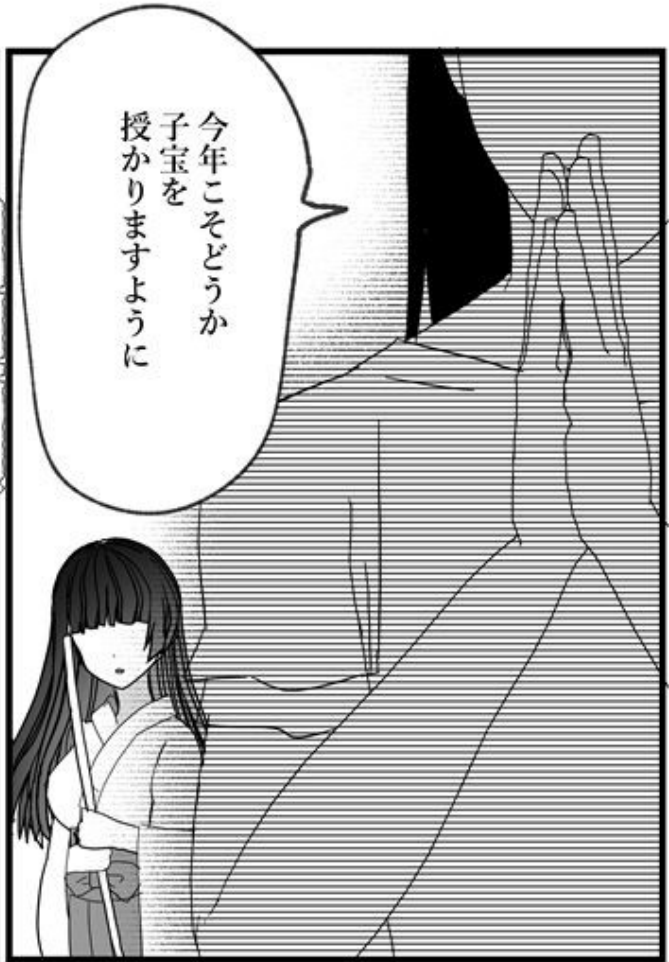


巫女様  
こんにちは

今日も  
お参りさせて  
もらいますね



この村は

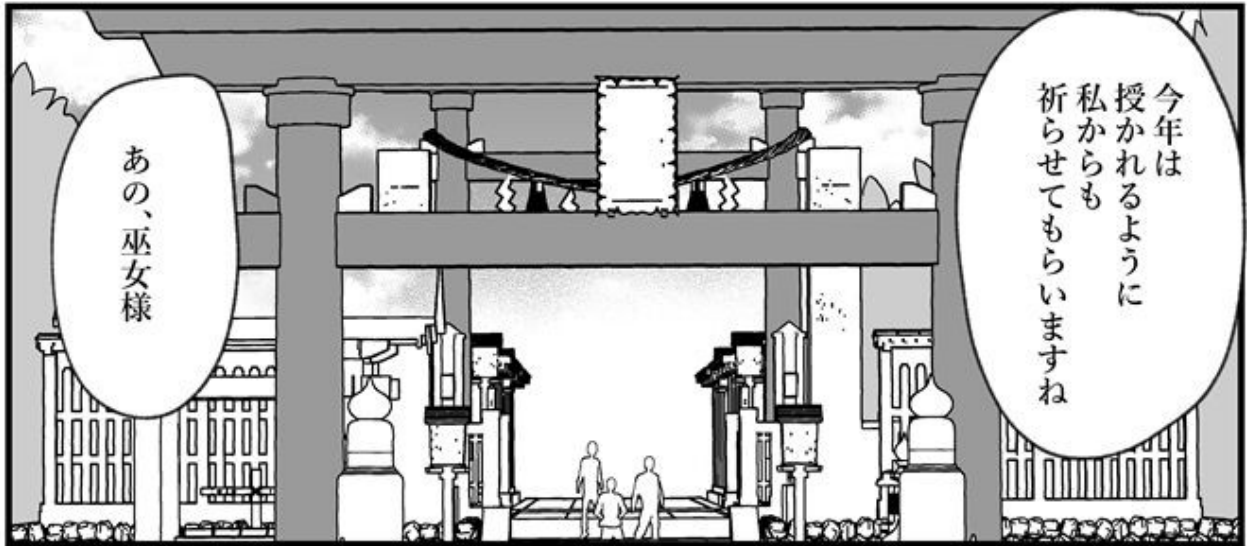


今年こそどうか  
子宝を  
授かりますように



そのため、この神社へ  
神へ祈る人が増えていきます

気候が穏やかで穀物も豊かに実る  
神に愛されし土地ですが、  
ある時から子どもがびたりと  
生まれなくなってしまうました



あの、巫女様

今年は  
授かれるように  
私からも  
祈らせてもらいますね



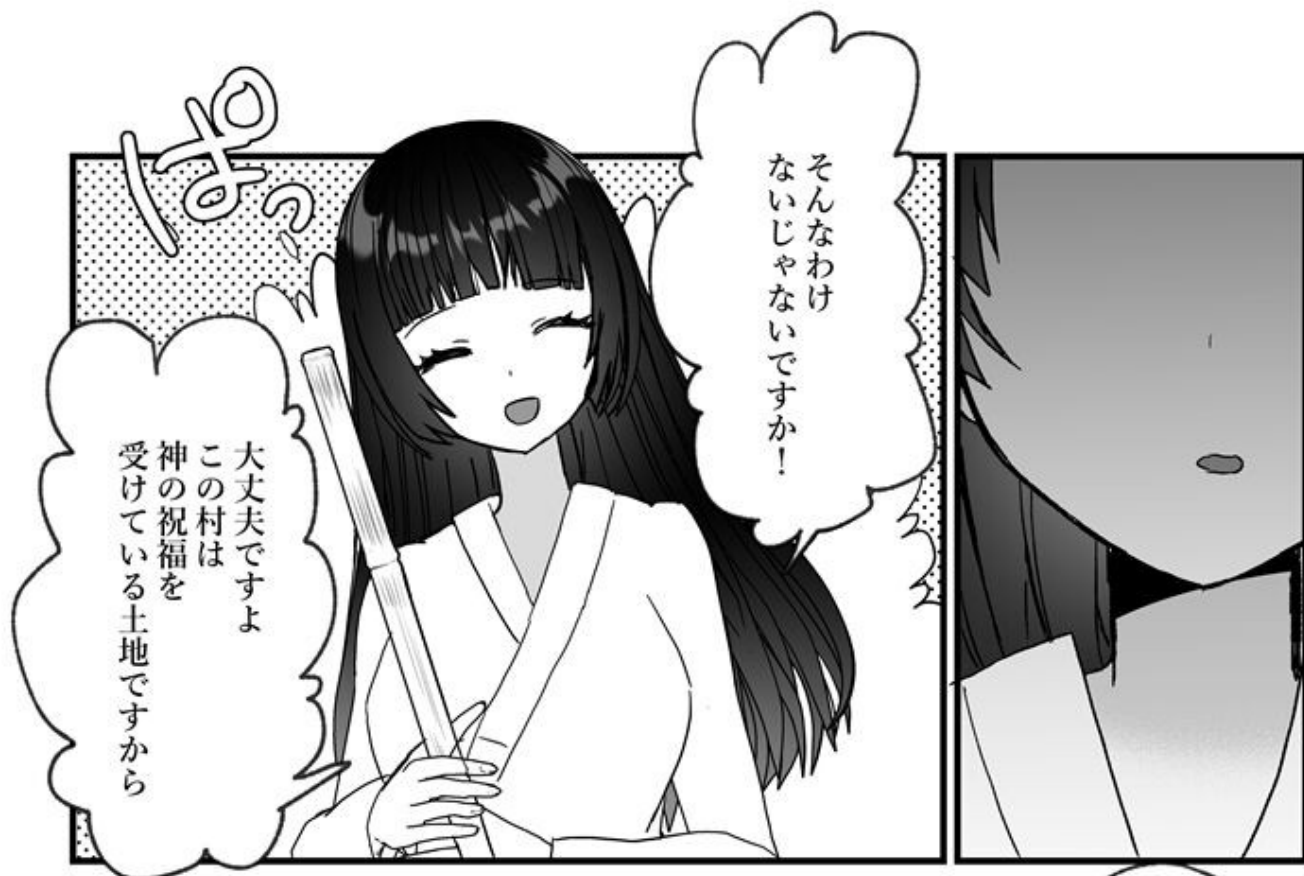
なんででしょうか？



やっぱり  
あの噂は  
本当なのでしょうか？

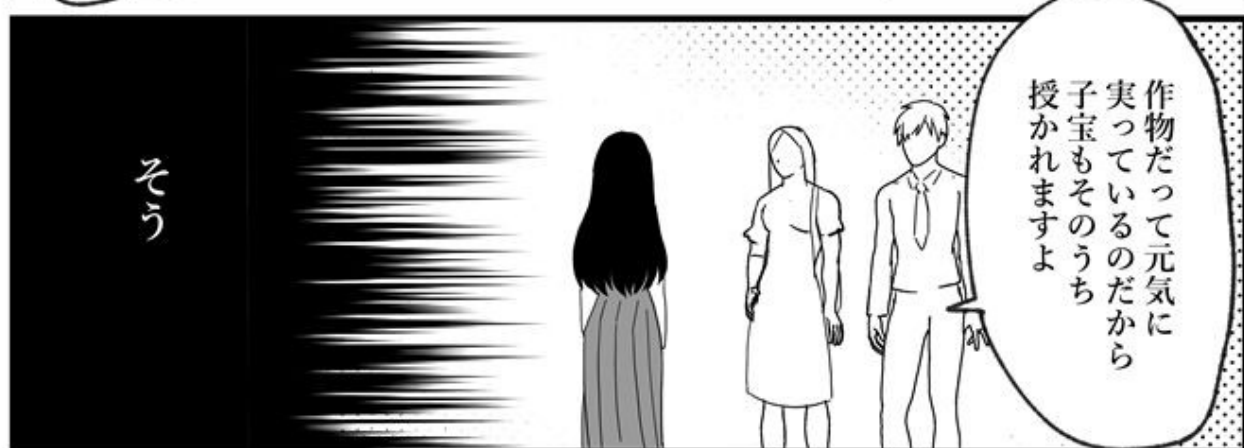


鬼神様が  
生贄を  
欲しているって



そんなわけ  
ないじゃないですか！

大丈夫ですよ  
この村は  
神の祝福を  
受けている土地ですから



作物だって元気に  
実っているのだから  
子宝もそのうち  
授かりますよ

そう

遙か昔から  
山に住む鬼に見守られているために、  
農作物が豊かに実るの村は  
今日まで他国から攻め込まれずに  
平和に存在し続けている。と

この村の土着信仰では  
鬼が神の如く崇められています





生贄が必要なら  
この村の巫女である  
私がいくべきでは  
ないでしょうか




鬼神様を祀る神社の巫女  
なのだから

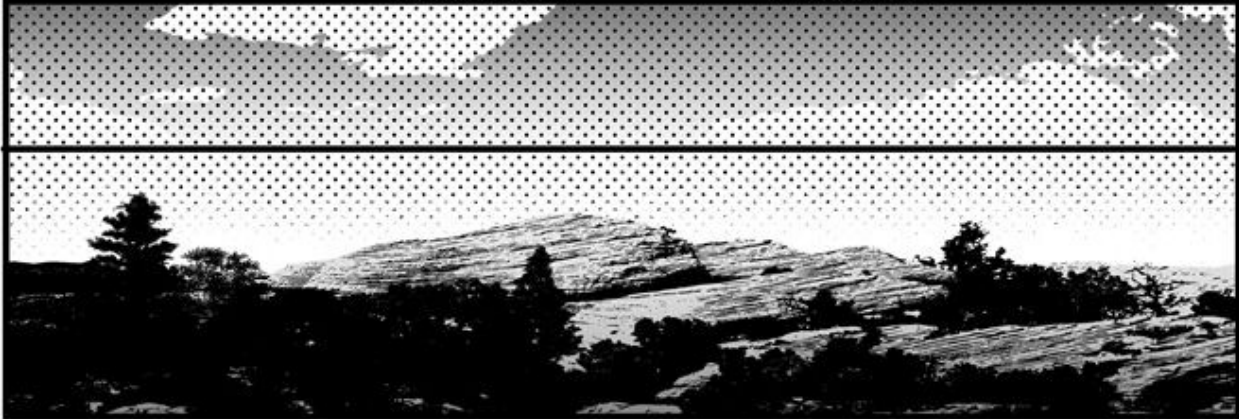
やはり  
私が一番適任でしょう

試してみる  
価値は  
あるかもしれません

……



この命と引き換えに、  
村が救われるならば本望です！

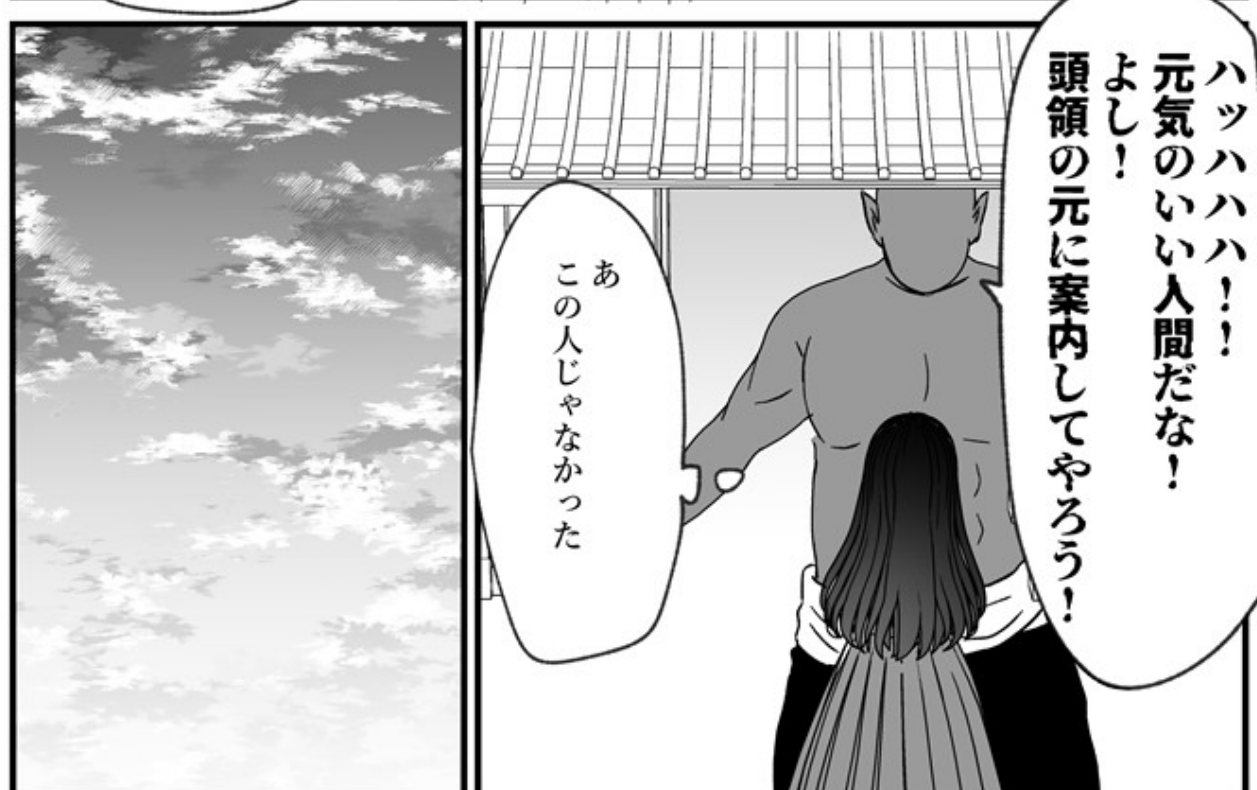




とても  
立派な  
お屋敷です……！

ごめんください！

ガッ





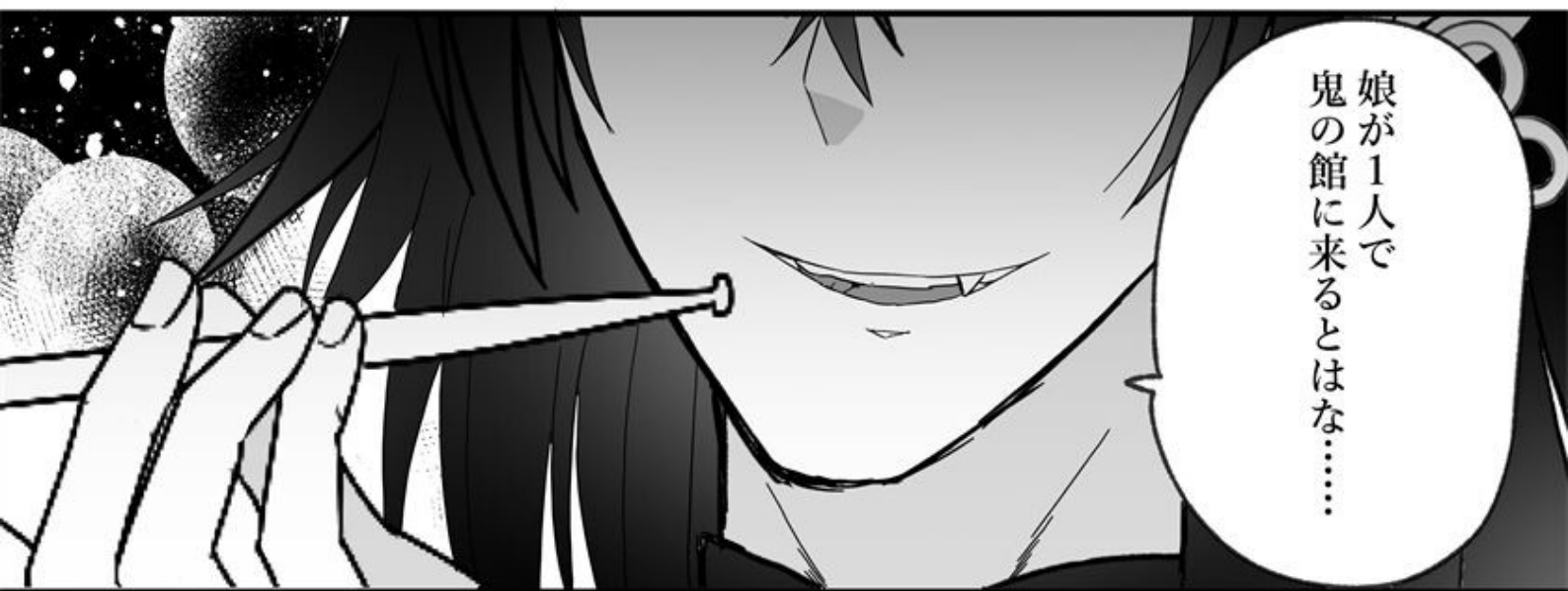
村人たちは  
無事に帰れたのでしょうか  
……

みなしごの自分を  
ここまで育ててくれた村人達に  
私は心から感謝をしているのです

捧げものとして  
来たという娘はお前か



はい。鬼神様。  
私は巫女の楓と申します



娘が1人で  
鬼の館に来るとはな……

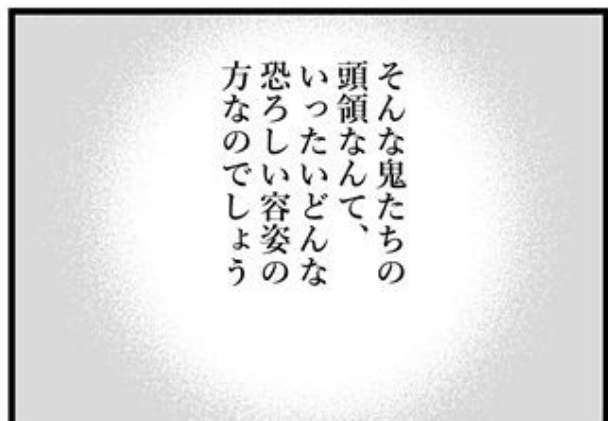


失礼いたします

ここまで  
案内してくれた鬼は  
どう見ても化け物でした

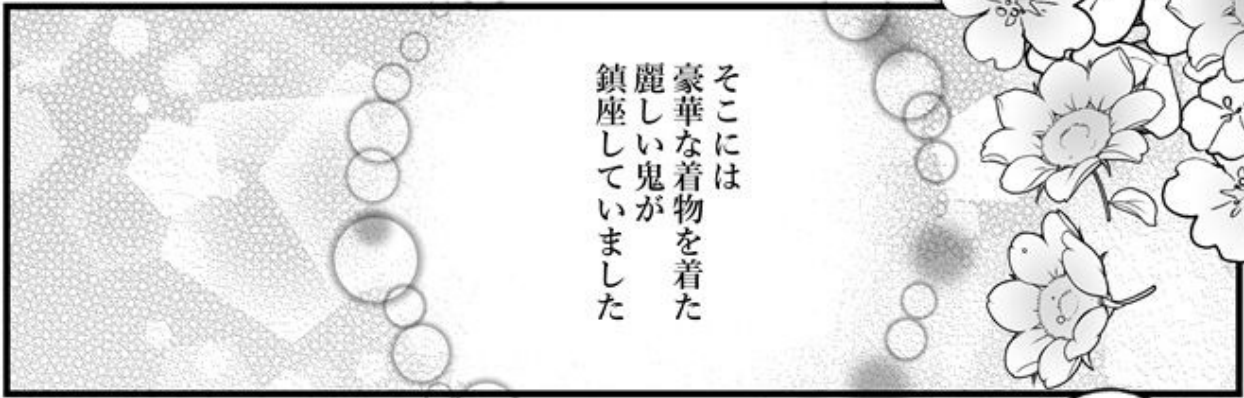


なかなか  
肝の据わった女ではないか  
気に入ったぞ。  
面を上げよ



そんな鬼たちの  
頭領なんて、  
いったいどんな  
恐ろしい容姿の  
方なのでしょう

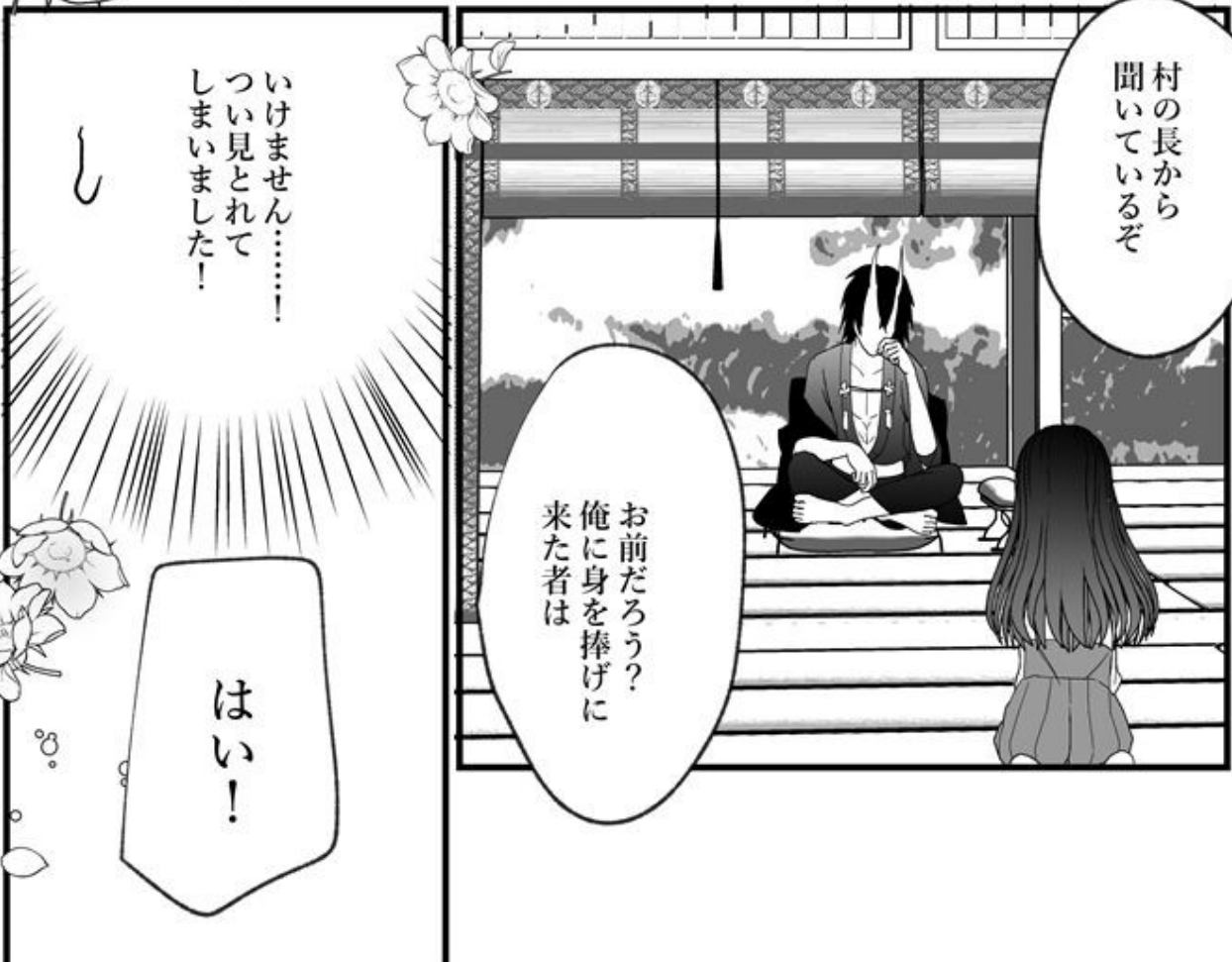




そこには  
豪華な着物を着た  
麗しい鬼が  
鎮座していました



これはまた  
可愛らしい娘が来たものだ

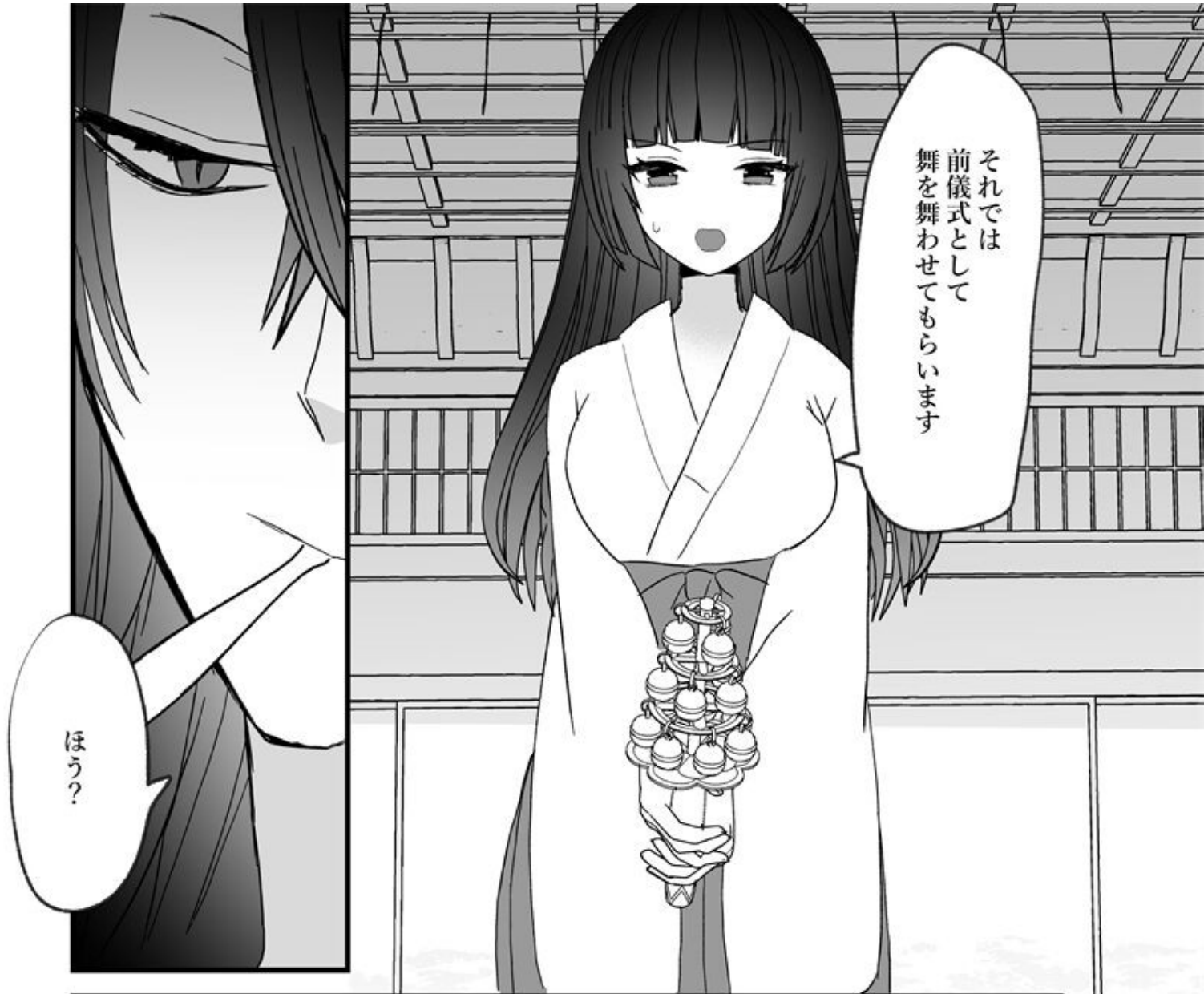


村の長から  
聞いているぞ

お前だろう？  
俺に身を捧げに  
来た者は

いけません……！  
つい見とれて  
しまいました！

はい！

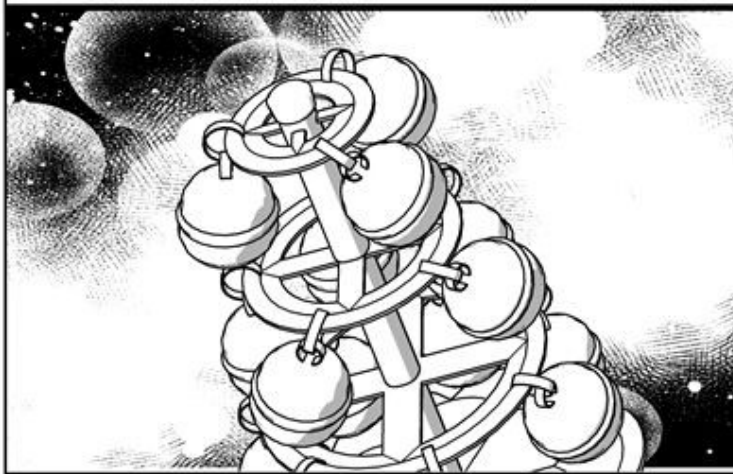


それでは  
前儀式として  
舞を舞わせてもらいます

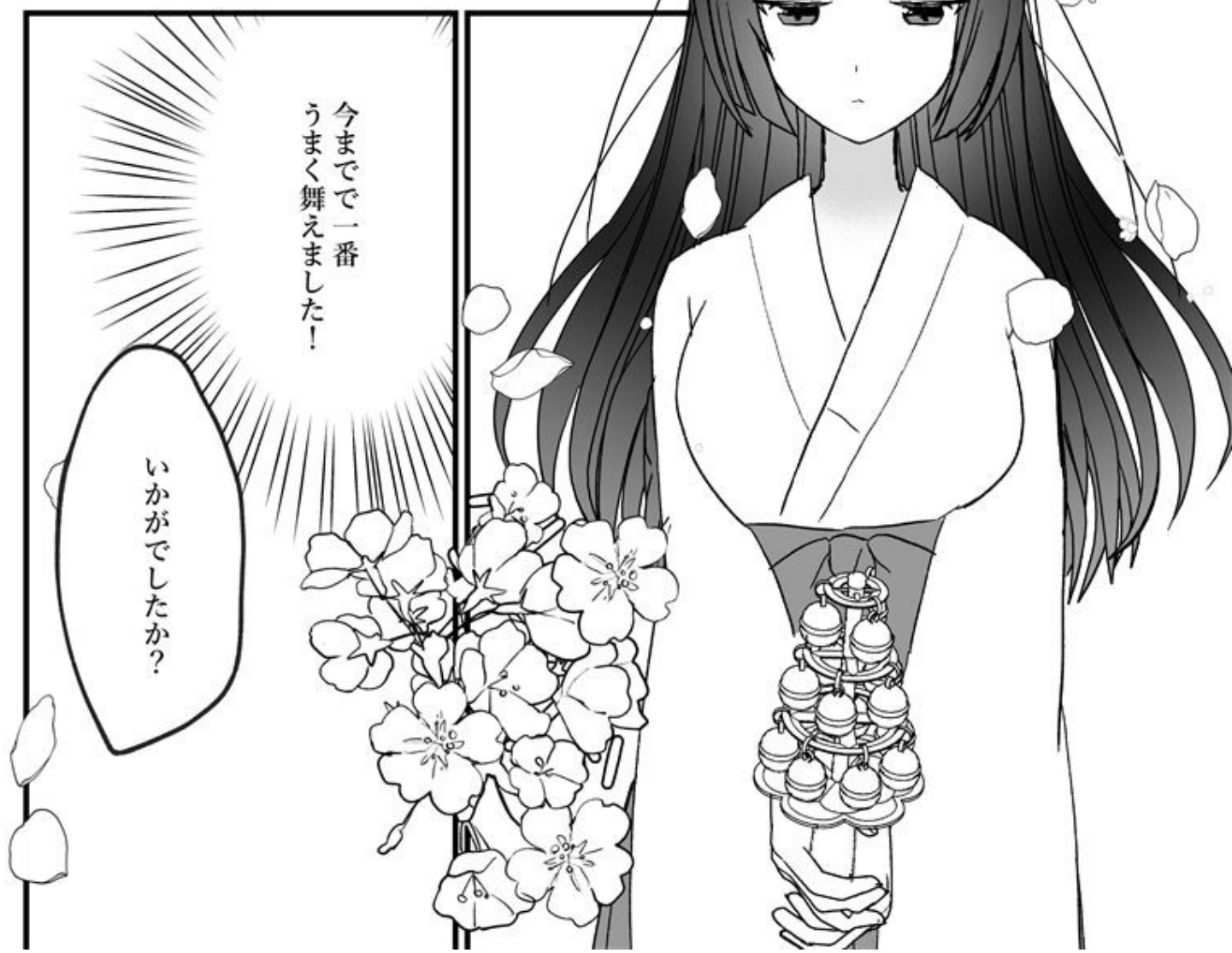
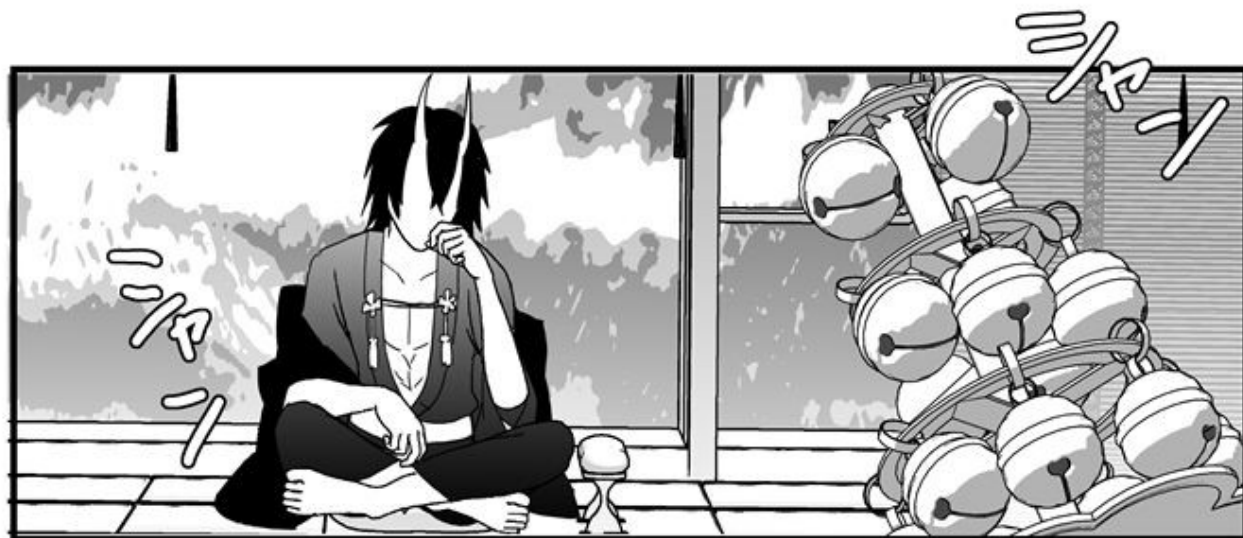
ほう？



生贄自体は  
ここずっとありませんでしたが  
村の祭りで  
巫女はその舞は踊るから  
その作法を知っていました



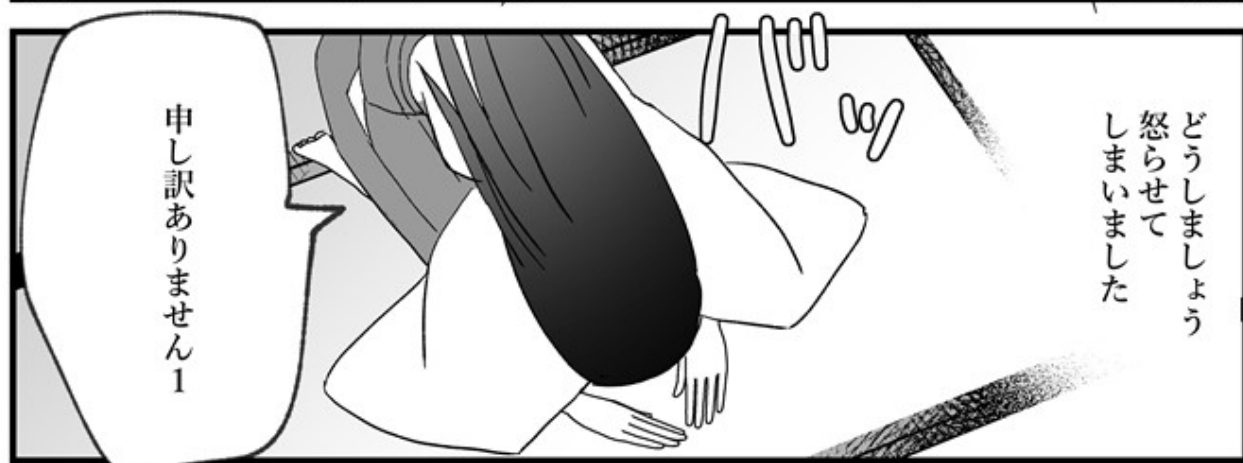
生贄になる前の儀式として  
舞を舞う風習がありました





駄目だ  
ぜんぜん  
なっていないな

えっ!



どうしましょう  
怒らせて  
しまいました

申し訳ありません!

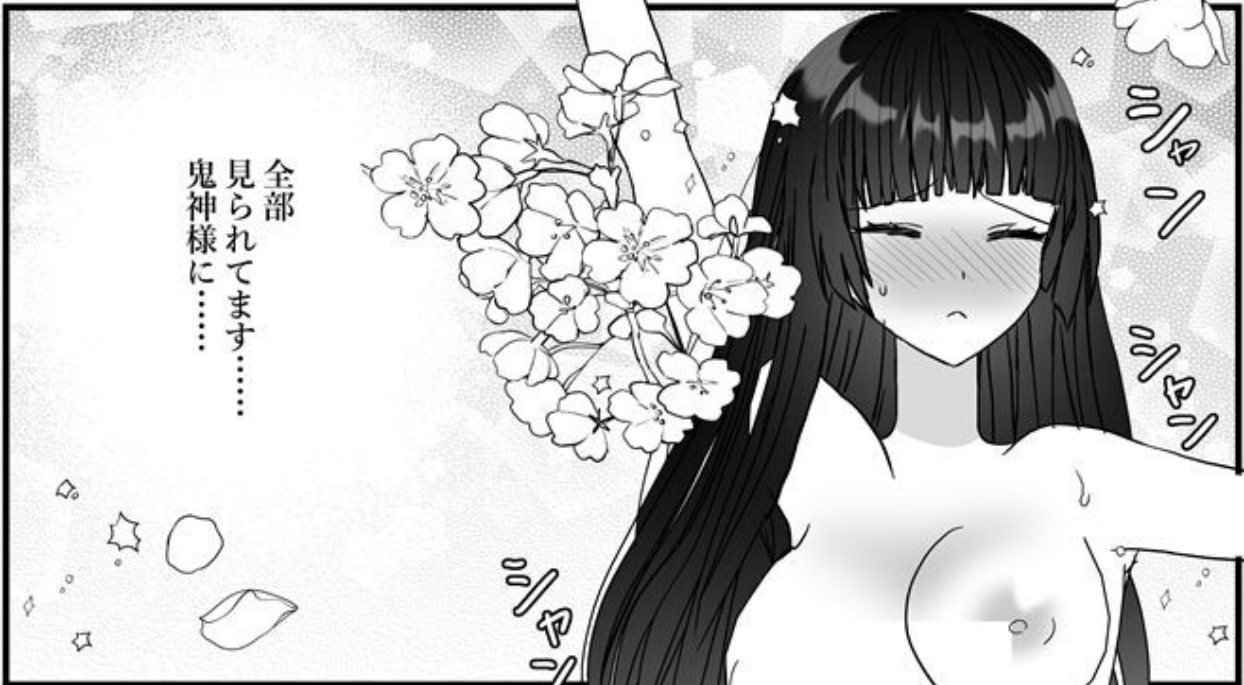
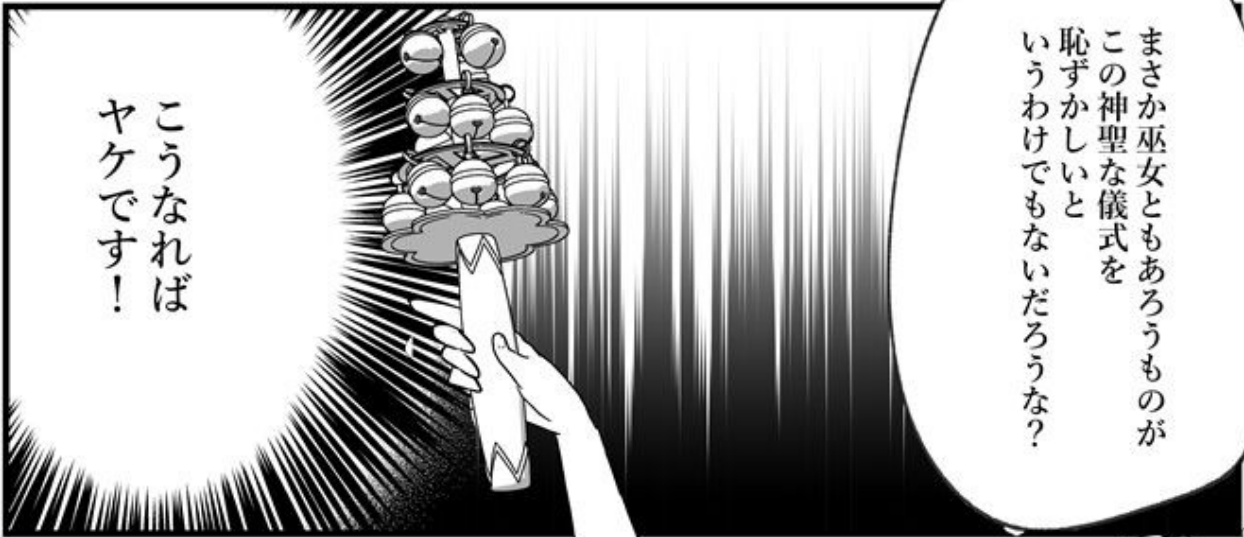


脱げ

え?

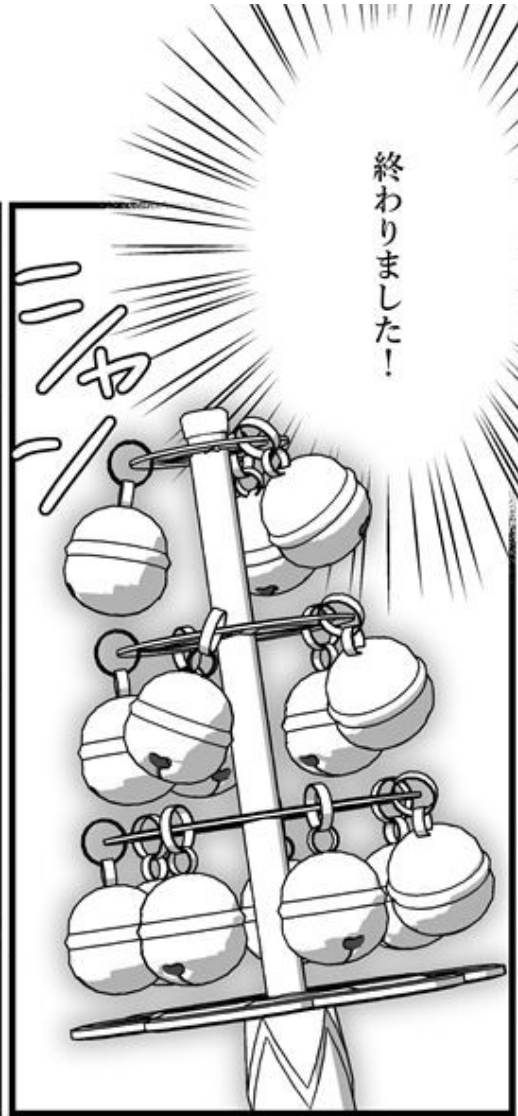
男を誘うのに  
そんなにかしこまった  
舞では興ざめだろう?





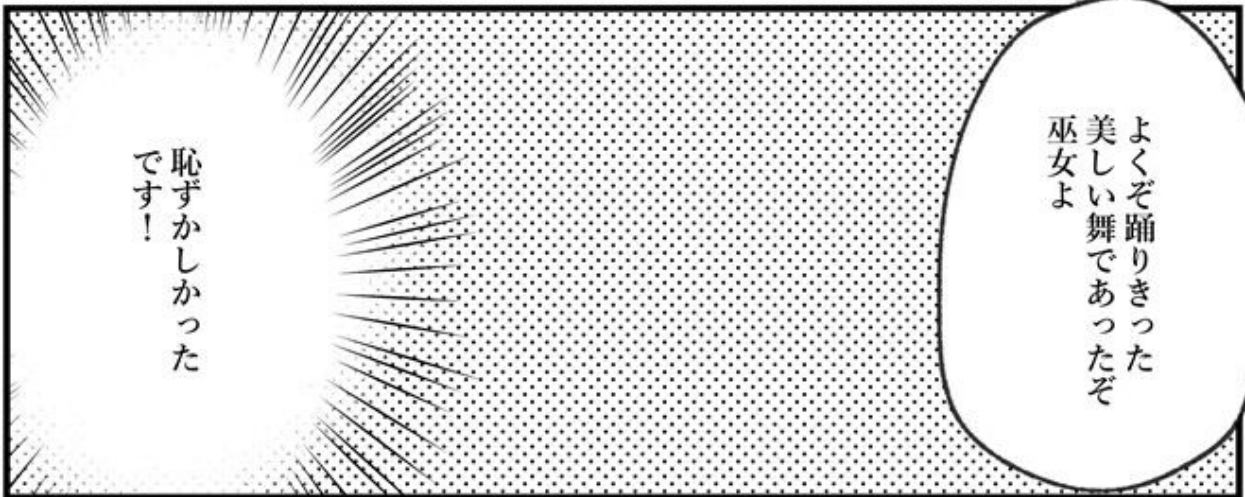


な



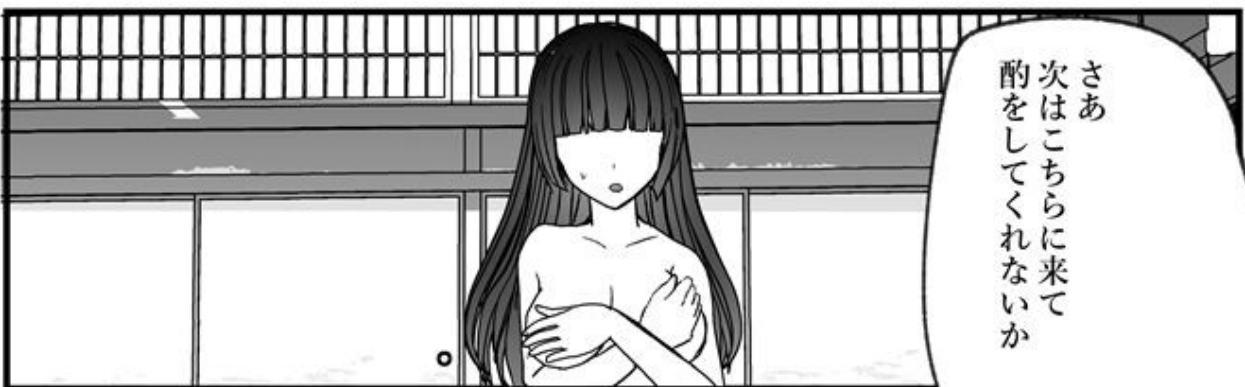
終わりました！

ニャ



よくぞ踊りきった  
美しい舞であったぞ  
巫女よ

恥ずかしかった  
です！



さあ  
次はこちらに来て  
酌をしてくださいか

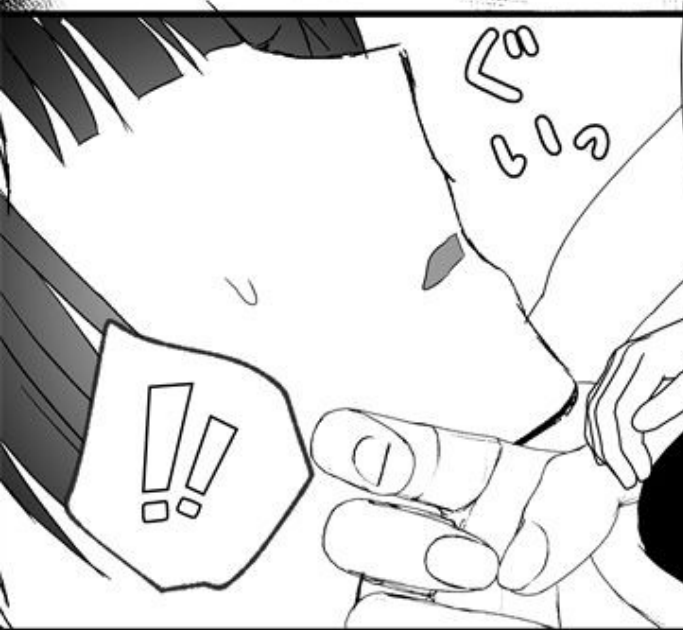


舞のほうは  
よかったのでしょうか……



そう怖がるな  
とって食いはしない

え？





どきん



やはり愛いな

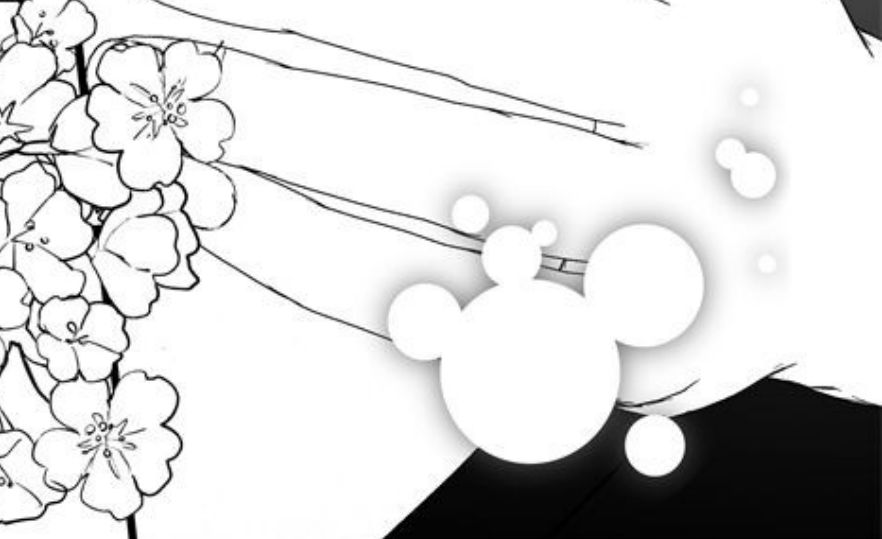


はっ

どうした？  
顔が赤いぞ？



あんまり  
見ないでください……！





なぜだ？  
こんなに可愛いのだから  
もっとよく見せてくれ

あ……



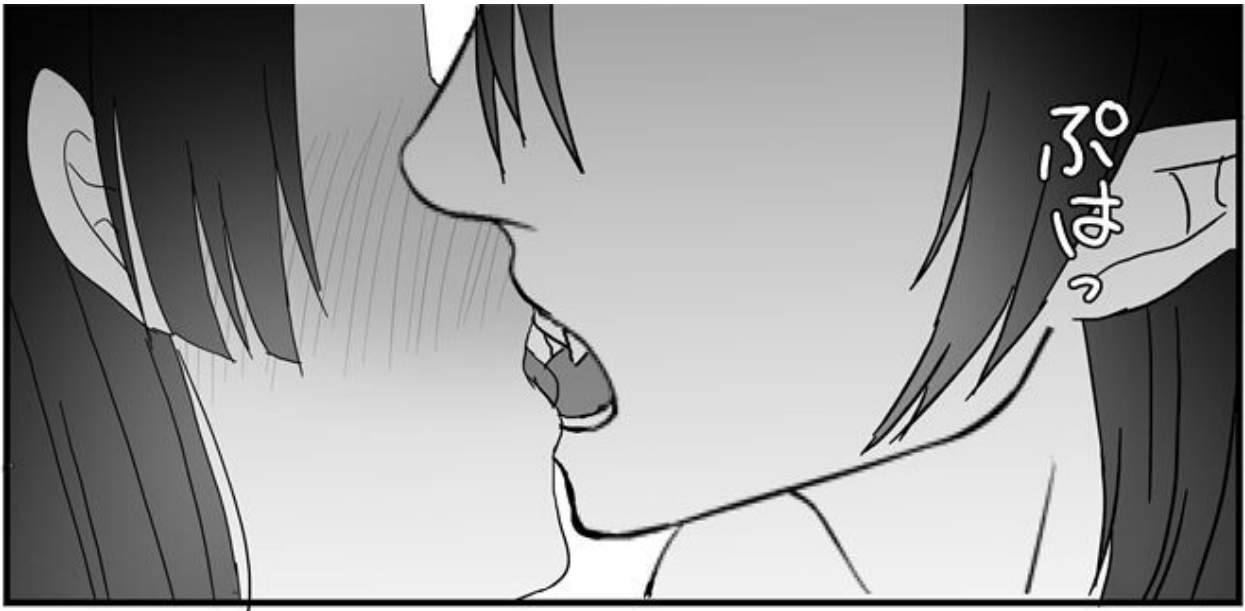
ち……  
近すぎます……!!

ま、待ってください……!!

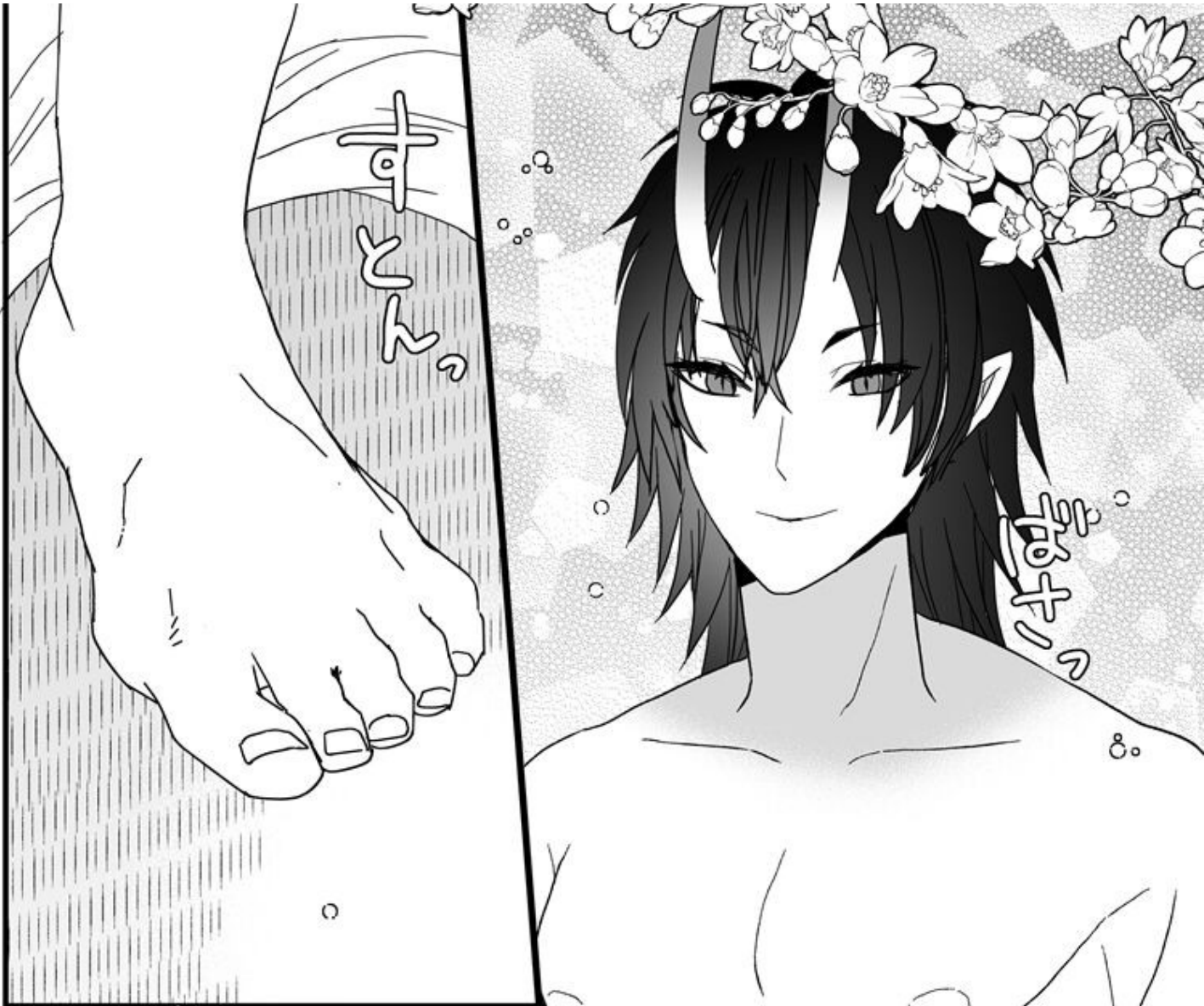


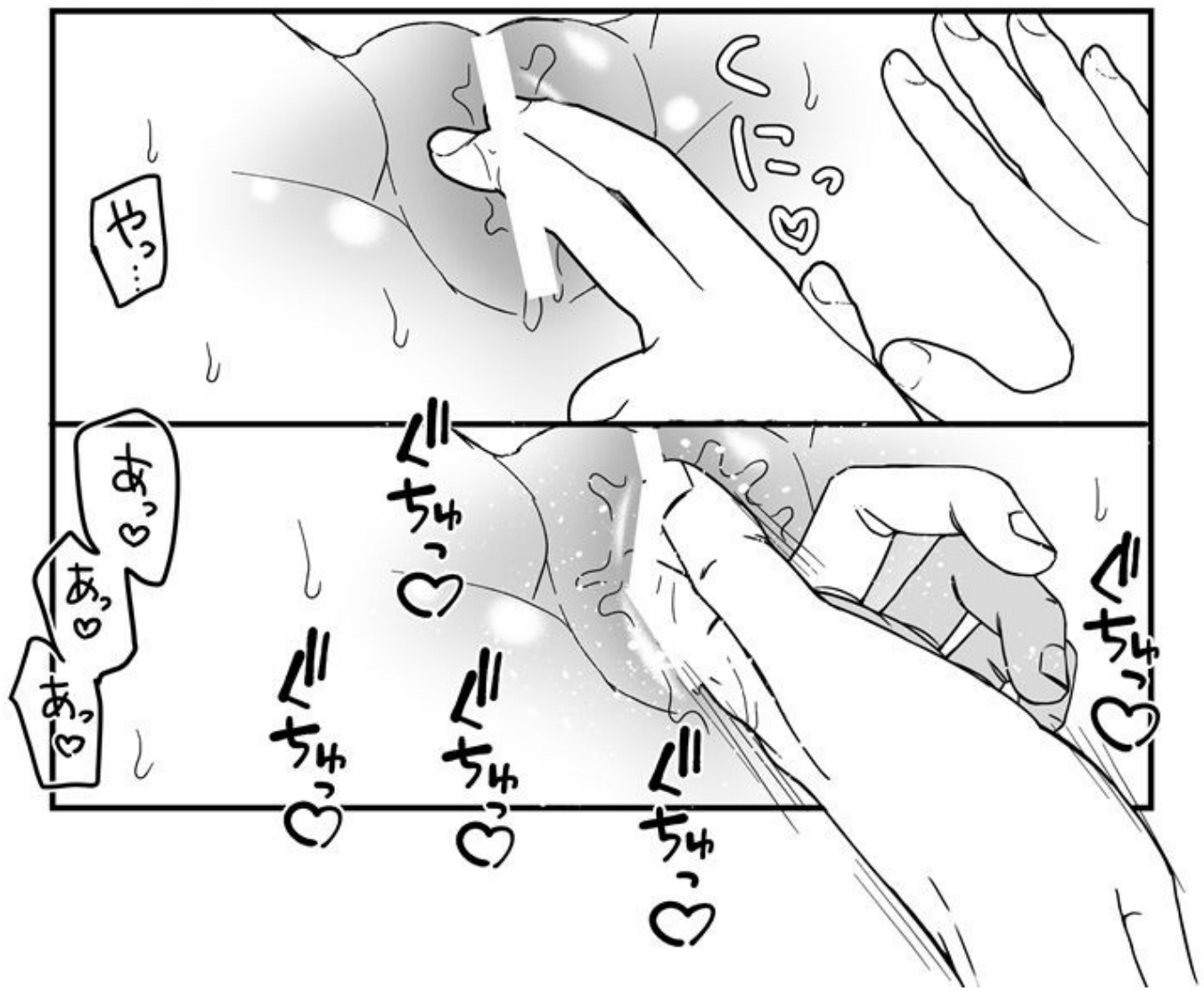
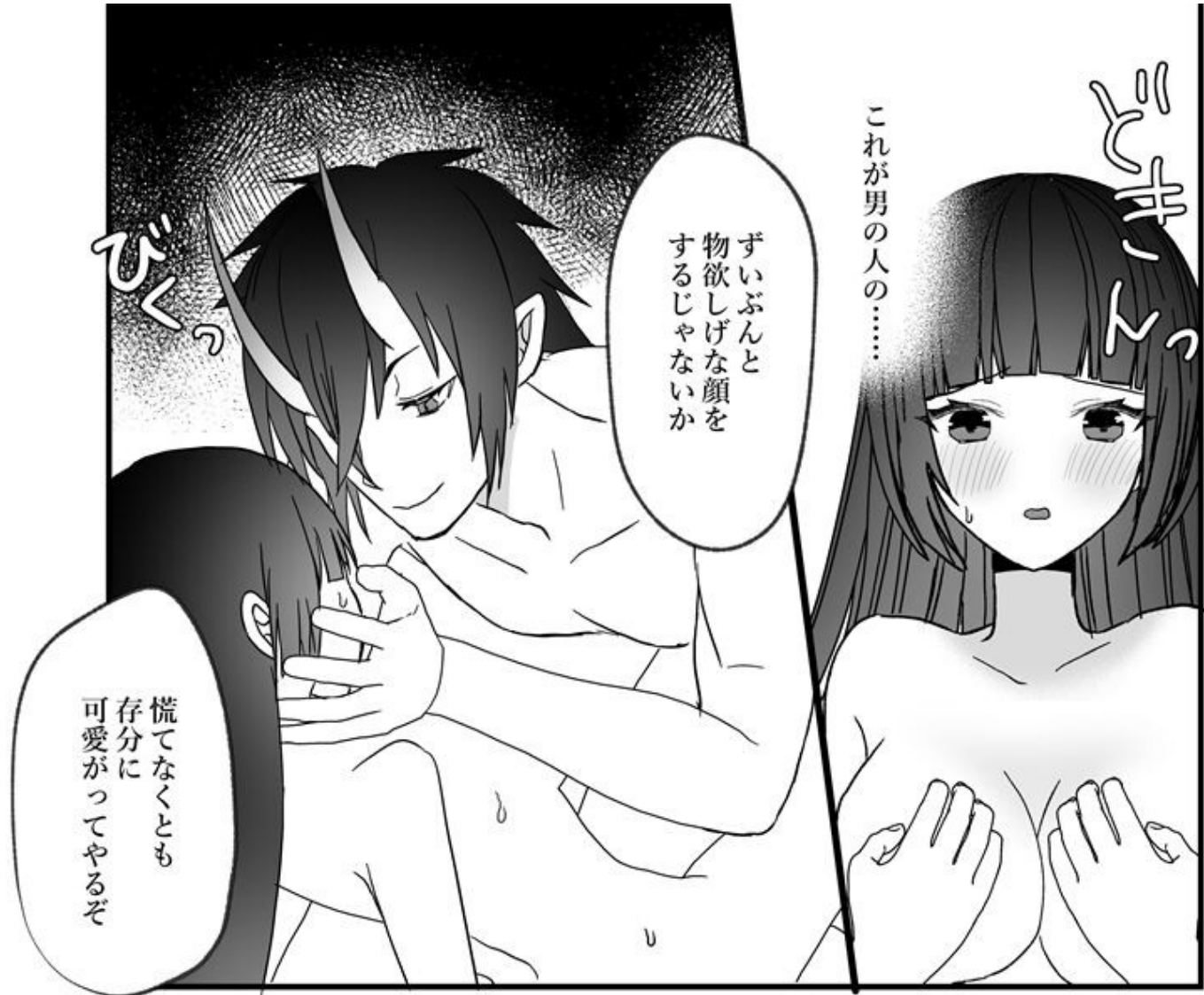








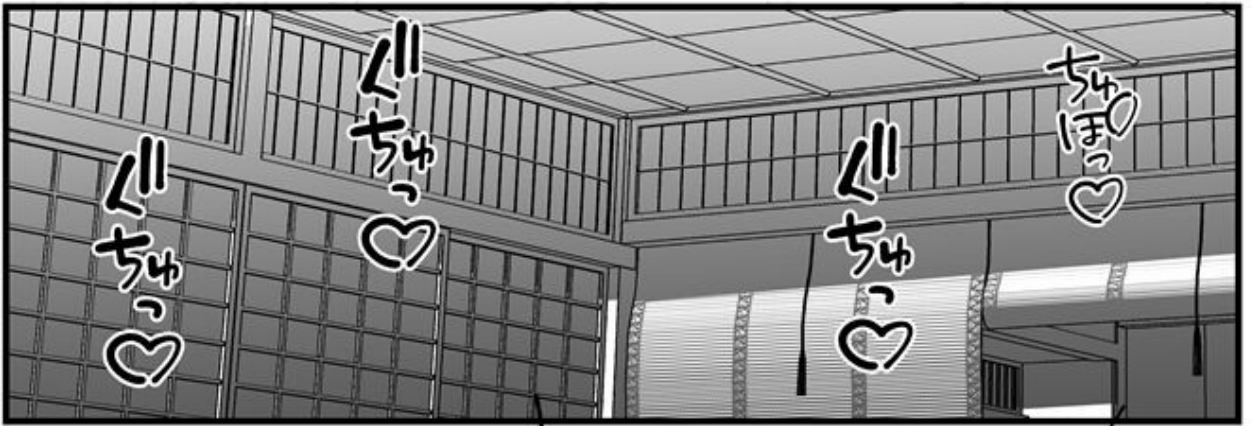


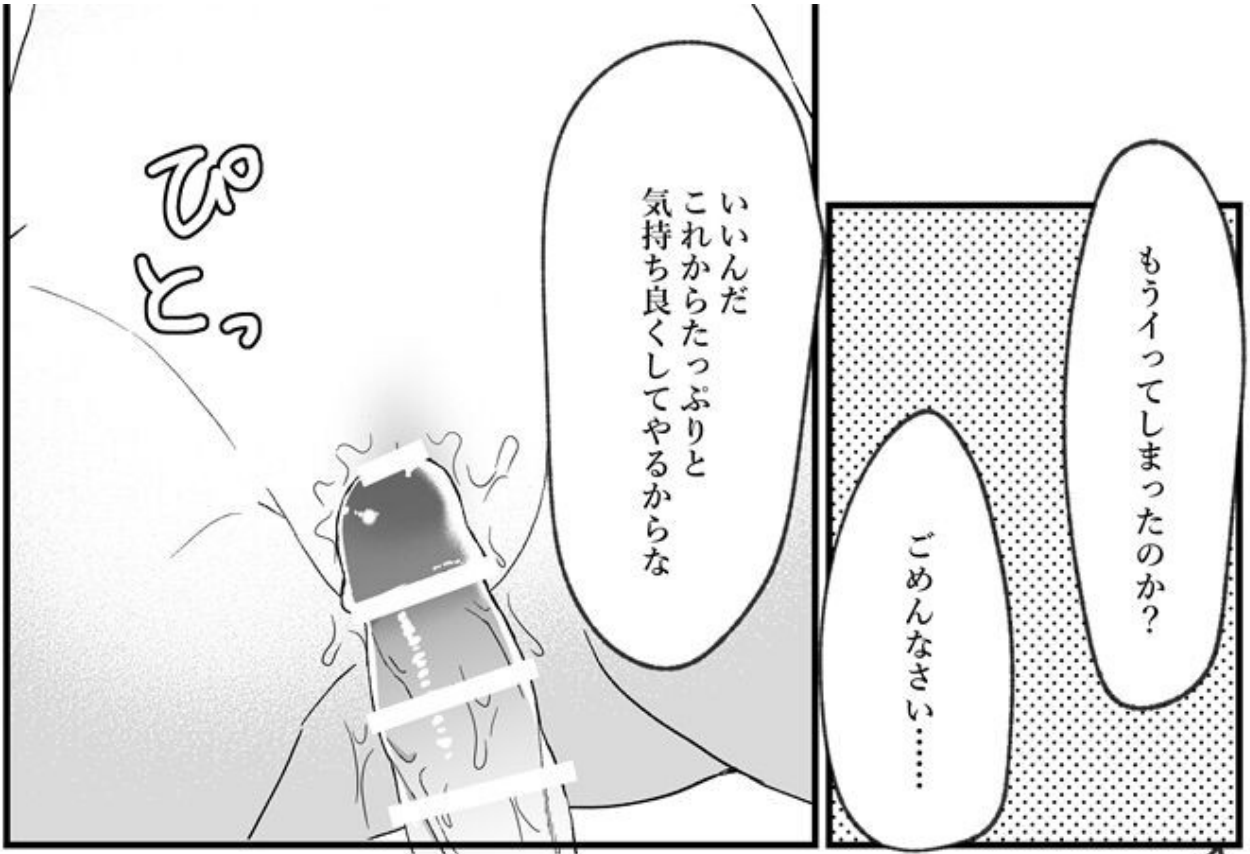




だって……  
あなたの手が  
気持ちいいんですもの……

ほら、どうした？  
まだ入れたただけだぞ？





ぴ  
とっ

いいんだ  
これからたっぷりと  
気持ち良くしてやるからな

もうイってしまったのか？  
ごめんなさい……



どうした？

あの……！



これは  
そのための儀式ですか？

私はこれから鬼さんたちの  
晩餐になるんですよね……？

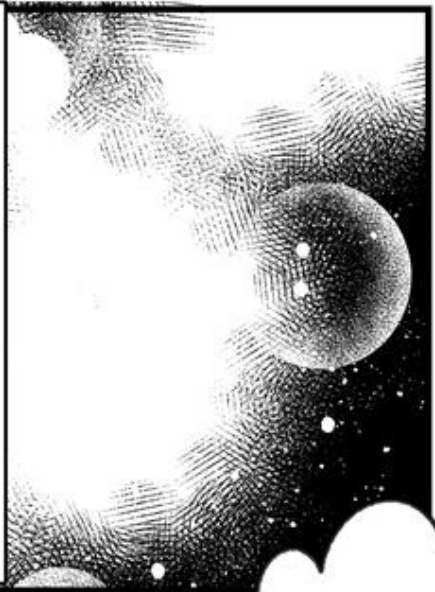


めおと……!?

これは  
夫婦の初夜のまぐわいに  
決まっているだろう?



生贄を捧げると宣告したはずが  
いつの間にか嫁入りの話に  
なっていたようでした




我々は人など食わん  
だから贄などいらぬ  
それに……




どうりで先ほどから  
様子がおかしいと  
思ったらそういうことか

あっはっは!!!  
これは傑作だ!



我が花嫁を  
他の鬼共に指一本だつて  
触れさせてやるものか

鬼神様……



さあ、巫女よ  
俺に純潔を捧げろ



女子...女子

女子女子女子

女子

N



動くぞ



なじんできたな

んん…



てああて

あ、あ  
あ、あ

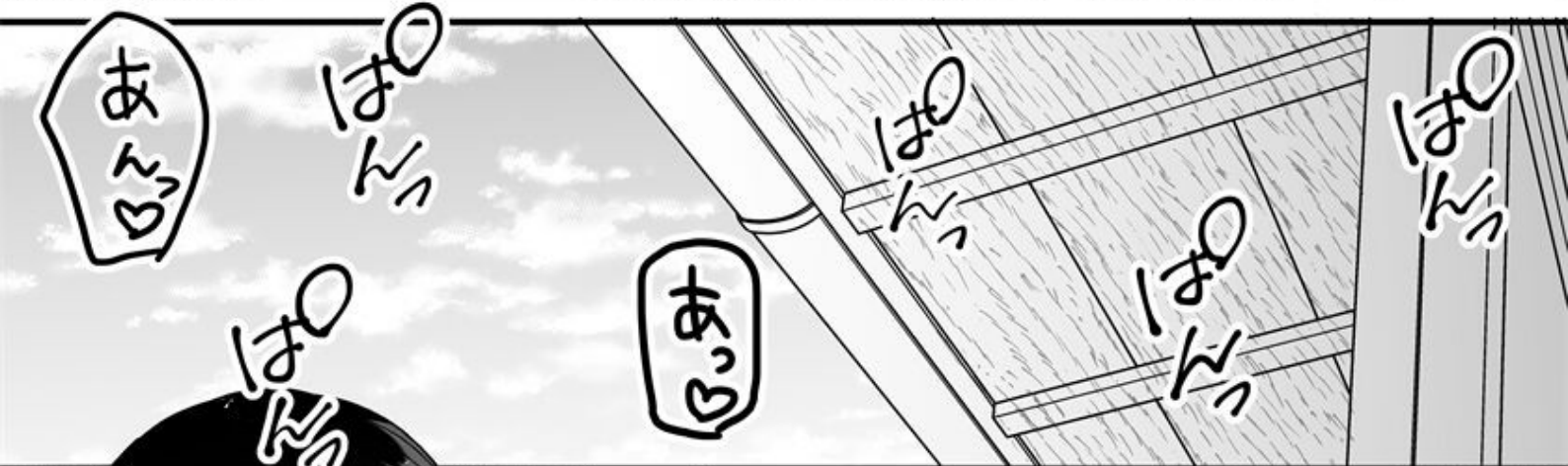




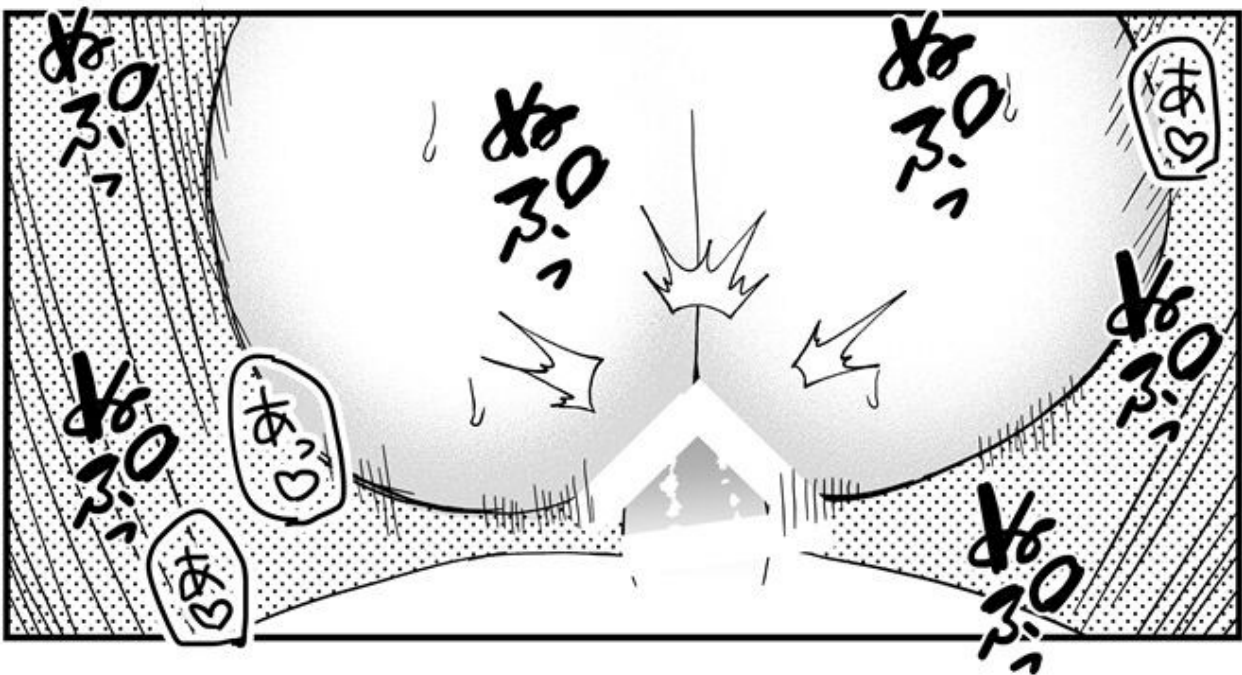
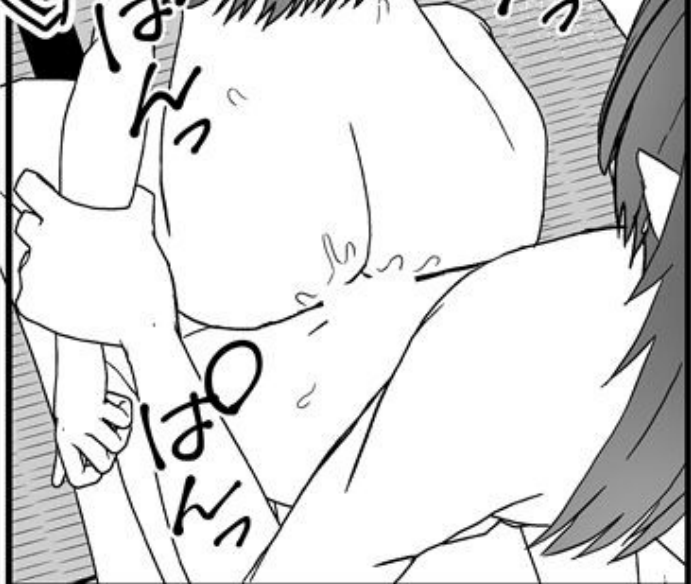
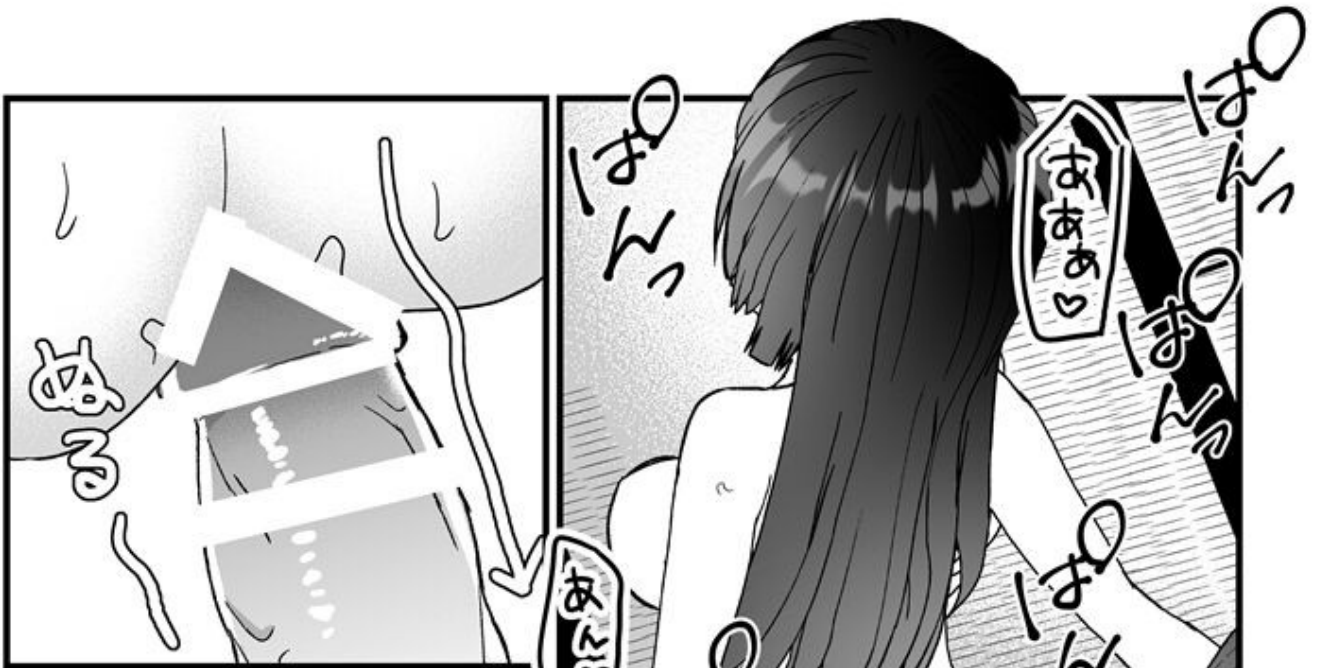




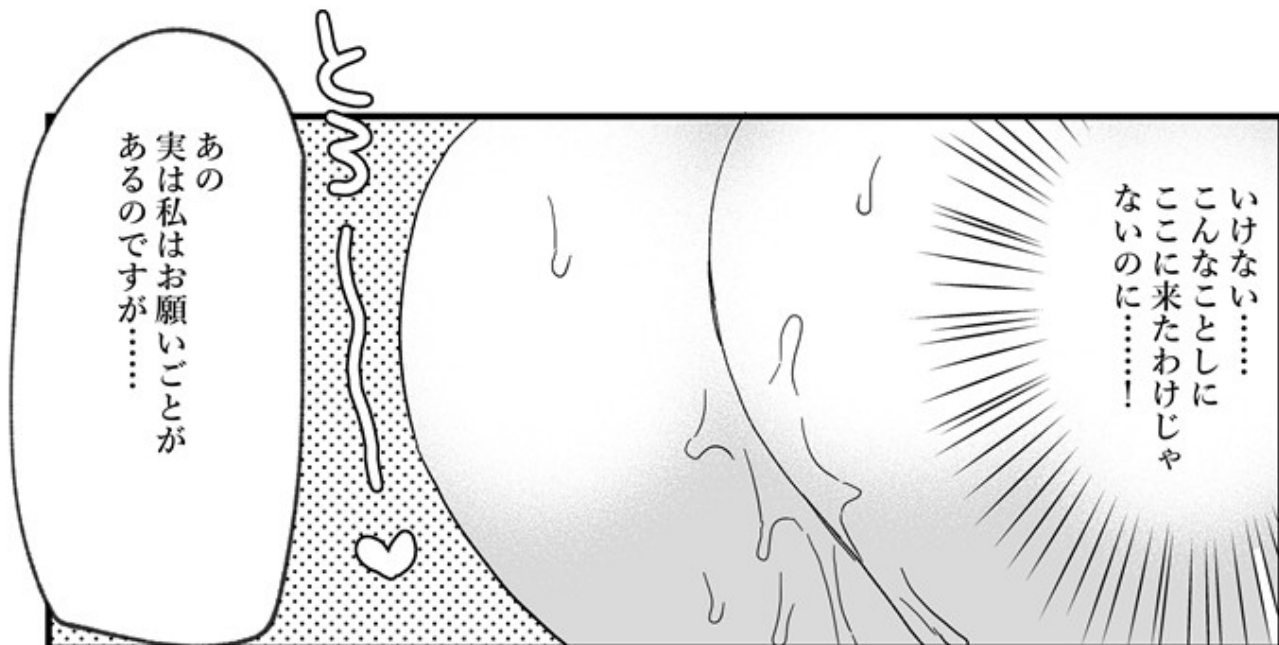
それからというもの  
私は毎日のように  
鬼神様に  
抱かれ続けました





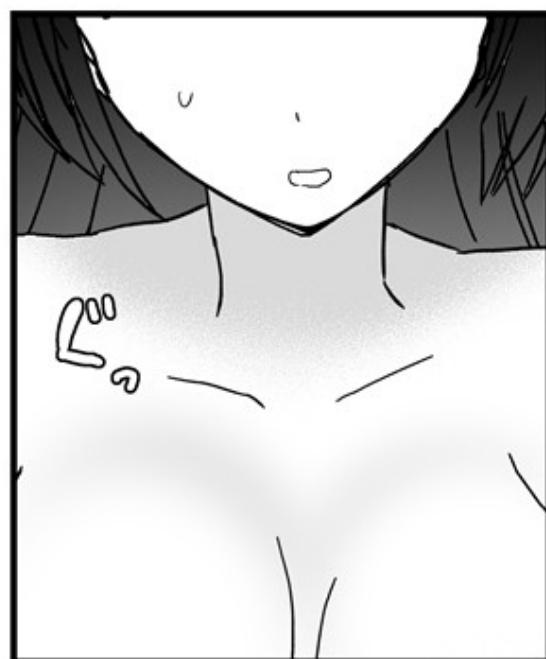






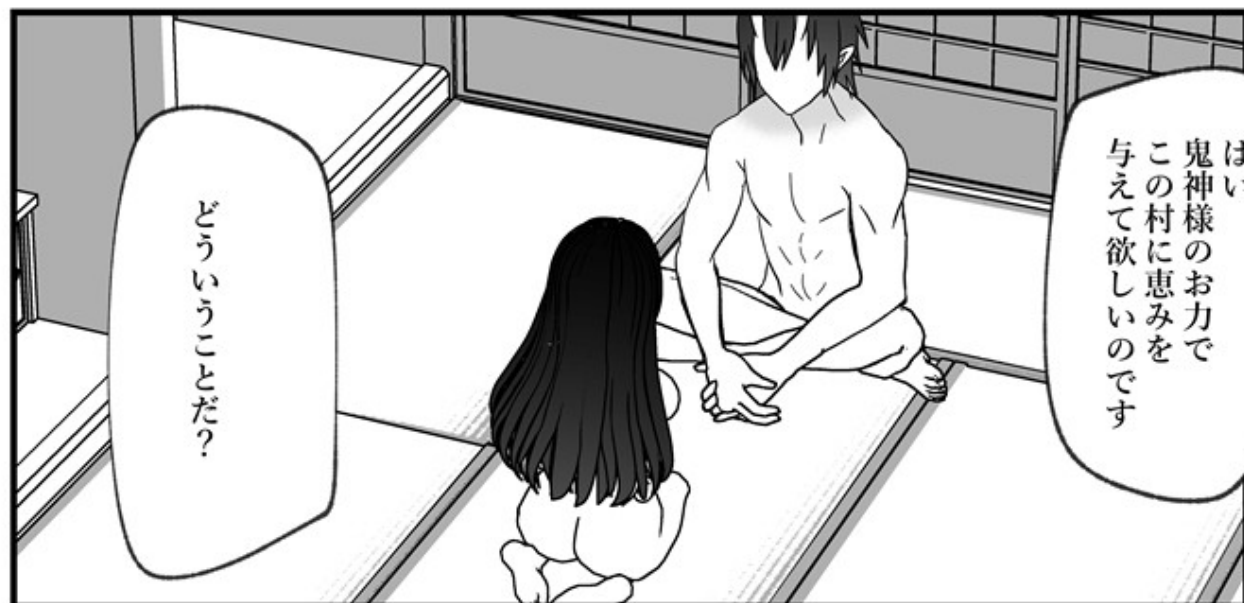
いけない……  
こんなことに  
ここに来たわけじゃ  
ないのに……!!

あ  
の  
実  
は  
私  
は  
お  
願  
い  
ご  
と  
が  
あ  
る  
の  
で  
す  
が  
……



願  
い  
?

ほう  
それは  
どんな  
もの  
だ  
?



はい  
鬼神  
様  
の  
お  
力  
で  
こ  
の  
村  
に  
恵  
み  
を  
与  
え  
て  
欲  
し  
い  
の  
で  
す

ど  
う  
い  
う  
こ  
と  
だ  
?

村は今子宝にとんと恵まれず  
危機に陥っています

そこでどうか  
鬼神様の精力を村の者たちに  
分け与えていただきたいのです

ここ数日抱かれて  
鬼神様の精力は  
凄まじいものだと  
実感しました

だ……  
だめでしょうか……

そう来たか

良いだろう  
我が妻の  
頼みとあらば断れん

やった！

ぽん

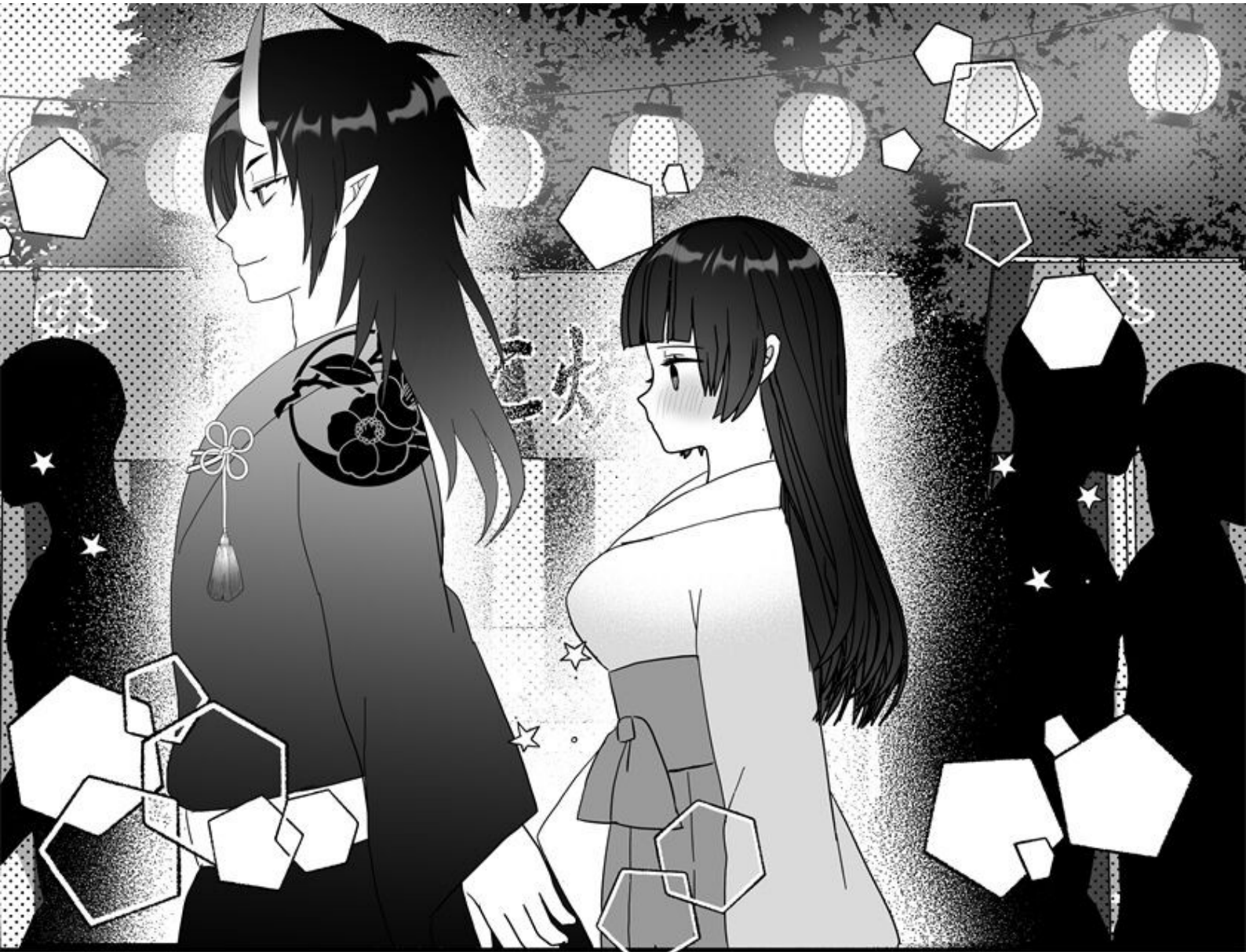
本当ですか!?

ああ  
ただし楓も  
手伝ってもらおう

お手伝いでございますか？  
……私が出来ることなら  
喜んでなんでも  
協力いたします！







ああ  
それが一番  
盛り上がるだろう

どうした？  
そんなに怯えなくても  
いいんだぞ？

本当に……  
するんですか？

ほら行くぞ  
俺の背に  
乗るといい

ここからは  
少し歩くからな

きやう

ひよっ  
ひよっ

しっかり掴まっている

広くて  
安心する  
背中……

本当に  
夫婦になった気分です



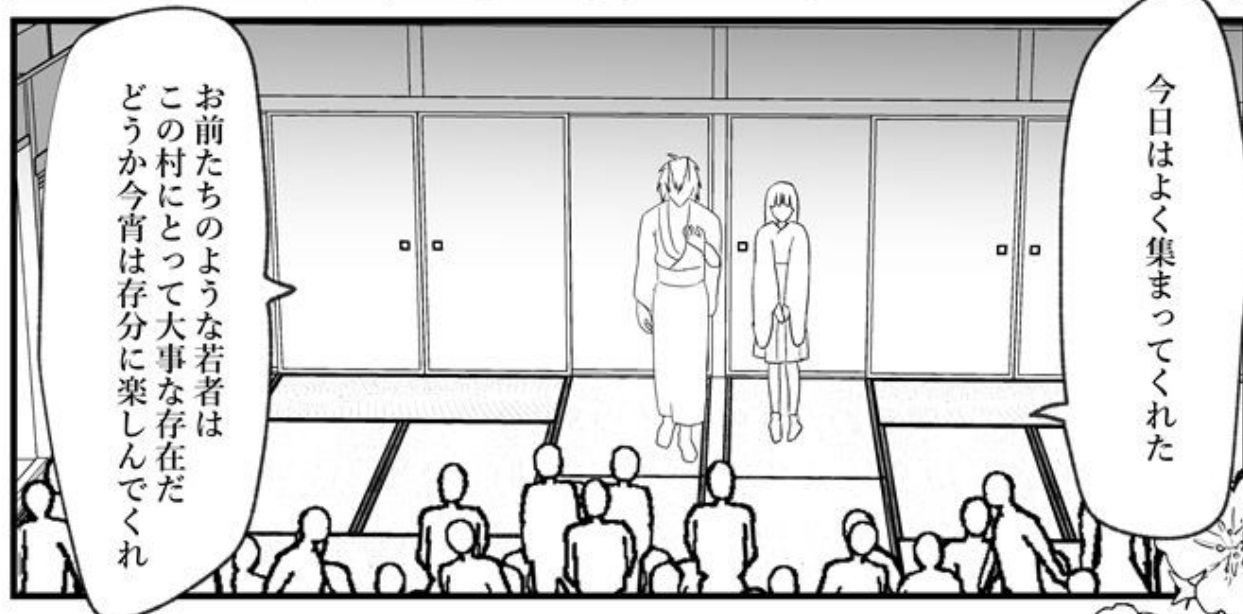


皆のもの  
待たせたな

カ  
ラ  
ッ



わ  
っ



お前たちのような若者は  
この村にとって大事な存在だ  
どうか今宵は存分に楽しんでくれ

今日はよく集まってくれた



我が妻により  
この村の事情を聞いている

この村の守護神として  
見過ごせぬと思い  
山よりおりて  
皆の前に姿を見せることにした

そこで今夜は  
みなが子宝に  
恵まれるように  
特別な儀式を  
執り行うことにしたのだ

それは  
一体どんなものなんですか!?

わあああ

あああ!

わああああ



それでは  
儀式を始める

は  
ら  
に





びんびん

びん

ああ……みんな見てる……  
私の恥ずかしいところ……

すわわわ

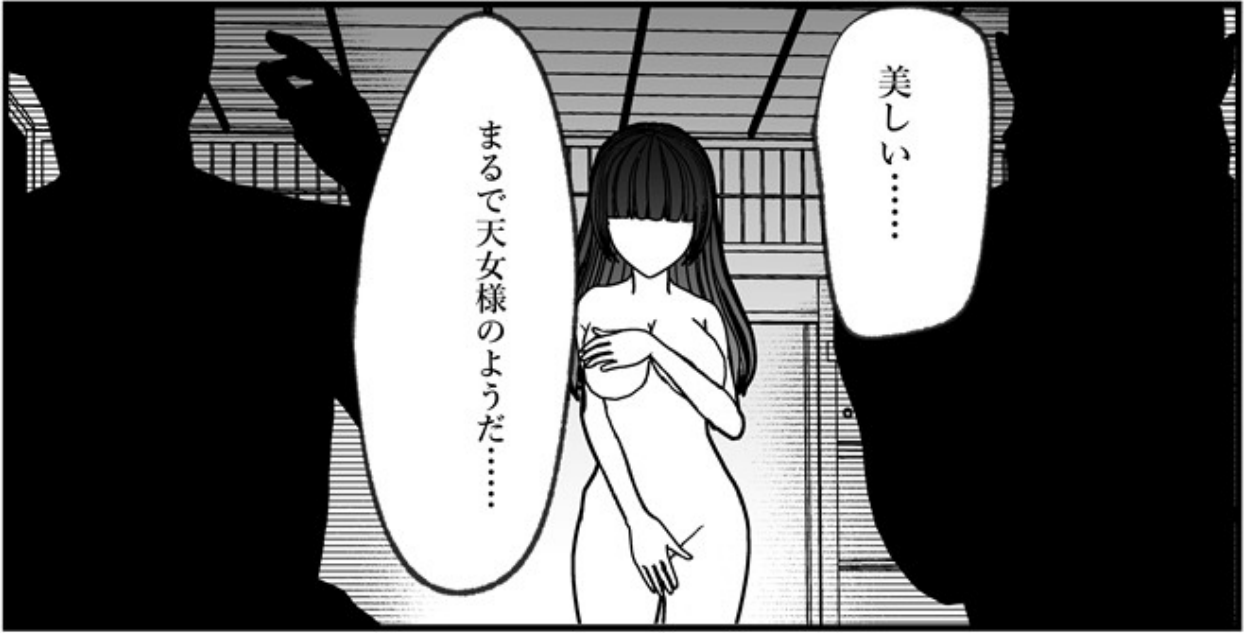
びんびん



びん

びん





美しい……

まるで天女様のようだ……

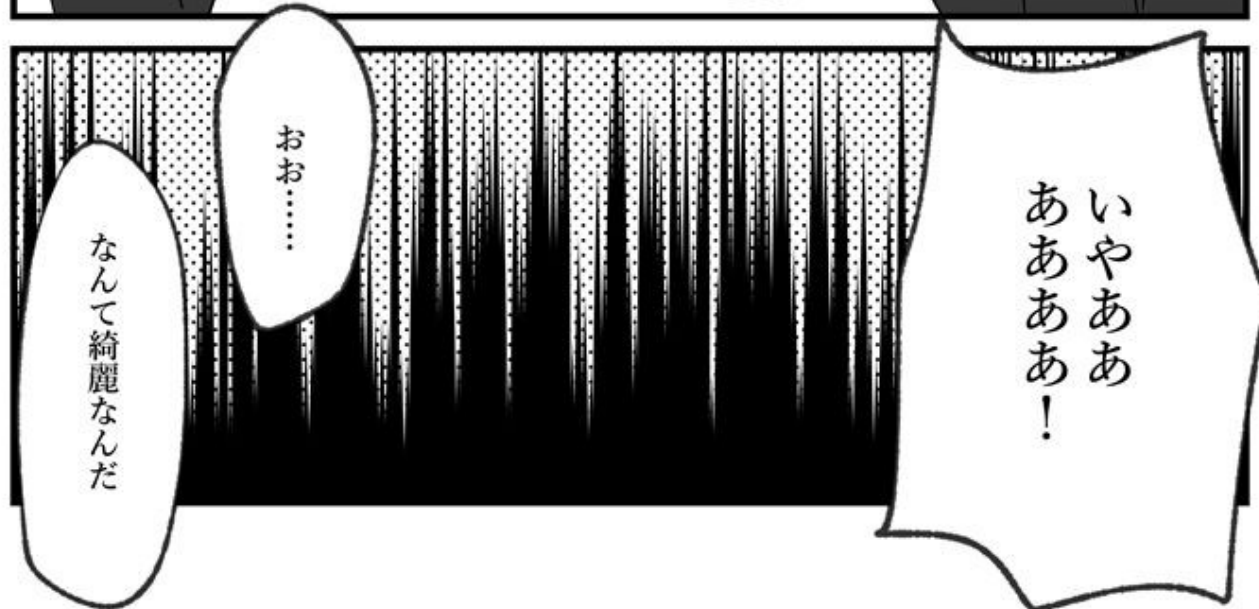


うそ……  
お姉さま？

なんて  
いやらしいの……



さあ、俺の妻よ  
お前のかわいい姿を  
皆に見せてくれ



なんて綺麗なんだ

おお...

いやああ  
ああああ!







どうだ？  
感じるか？

はい……  
すごく感じます……♡

あー♡

くさっ♡

あっ♡

あ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

ぬいっ♡

ぬいっ♡

ぬいっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡



はあ、はあ……  
おねがいます……  
どうかもっとなつてくたさい……

まったく、淫乱な妻だ

カイン♡♡♡

ムムム♡



あま♡♡♡

ちゅ♡♡♡

ちゅ♡♡♡

ちゅ♡♡♡

ちゅ♡♡♡

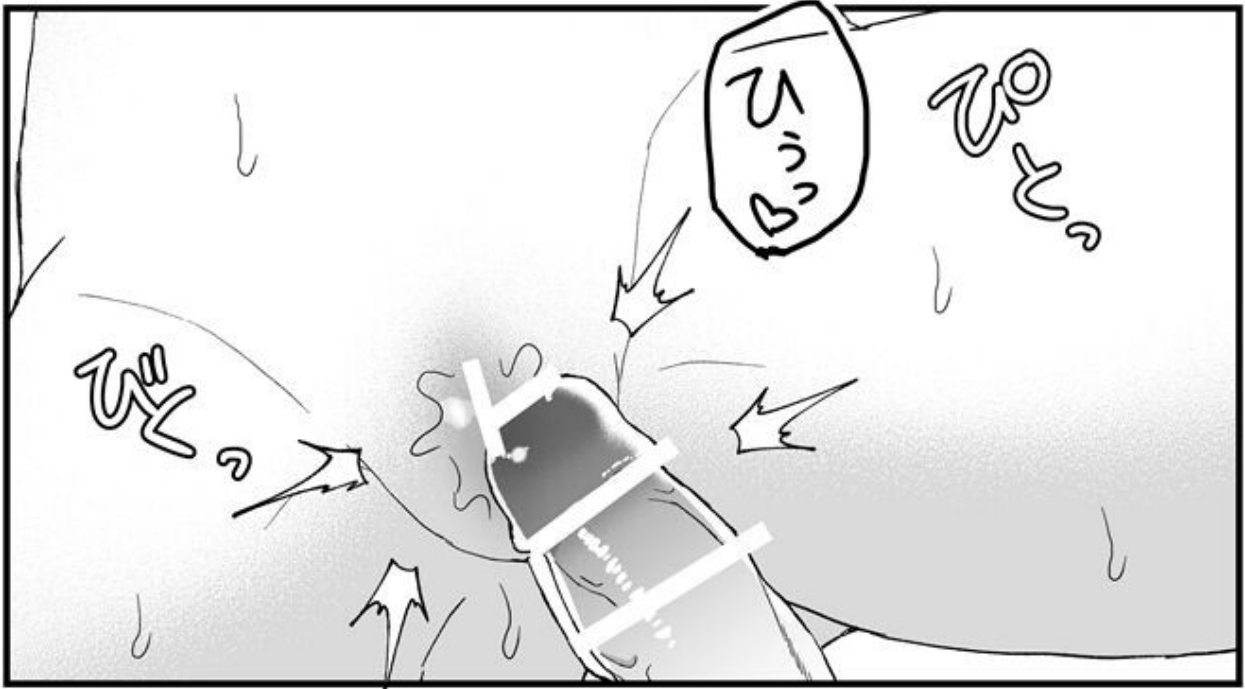
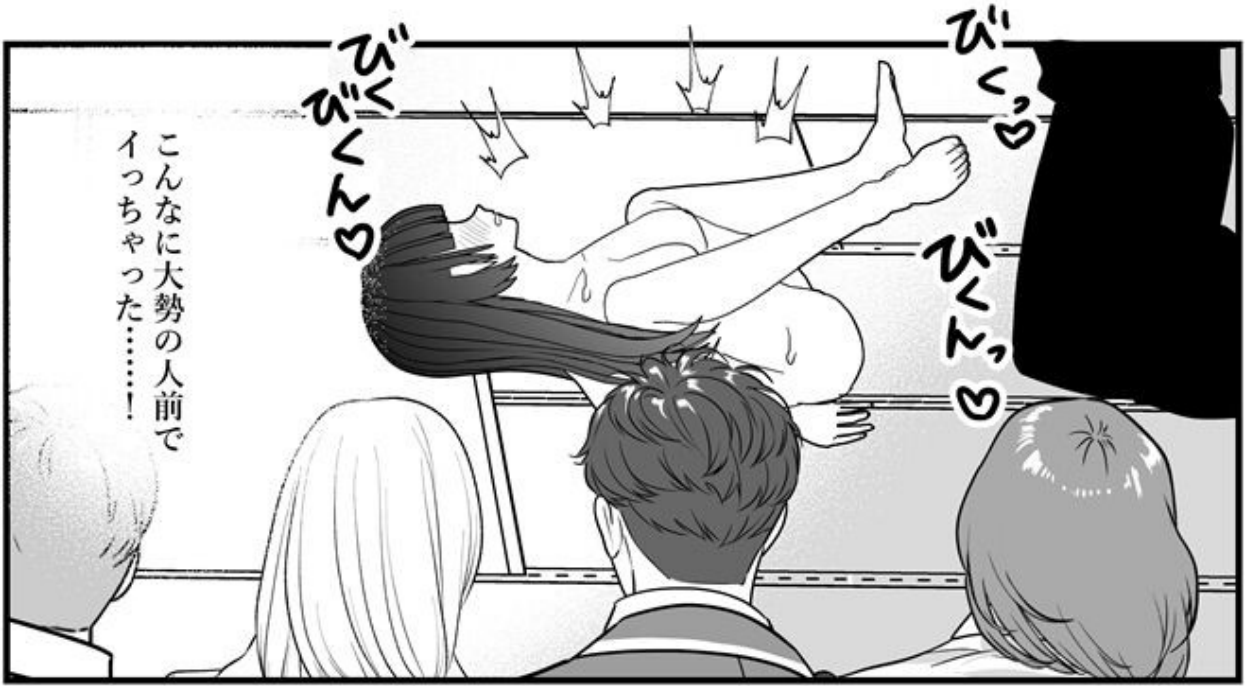
ちゅ♡♡♡

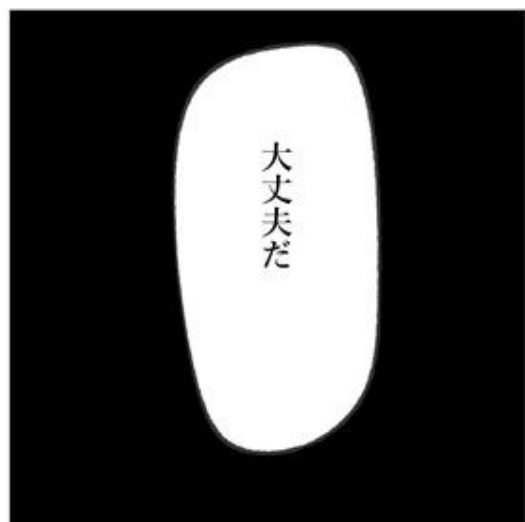


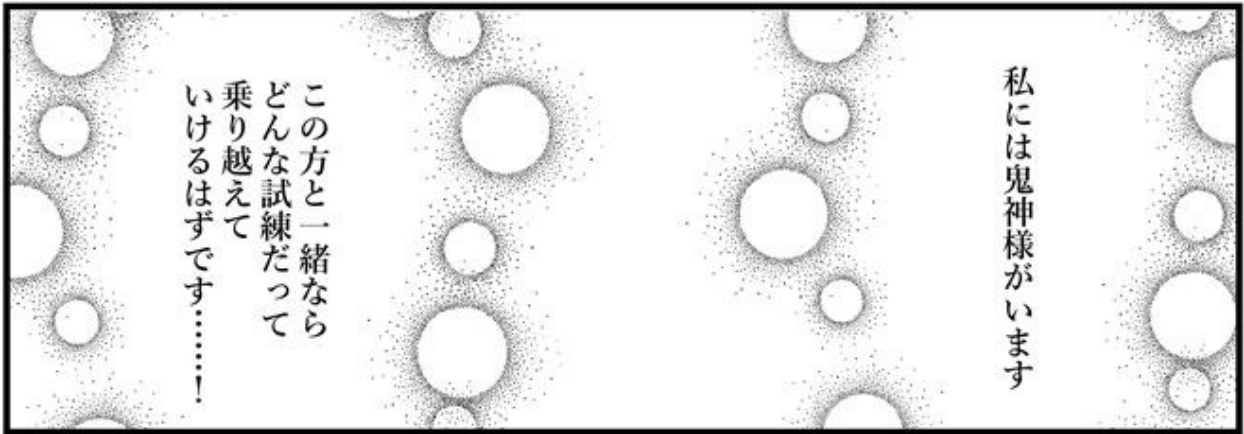
お♡♡♡

ちゅ♡♡♡



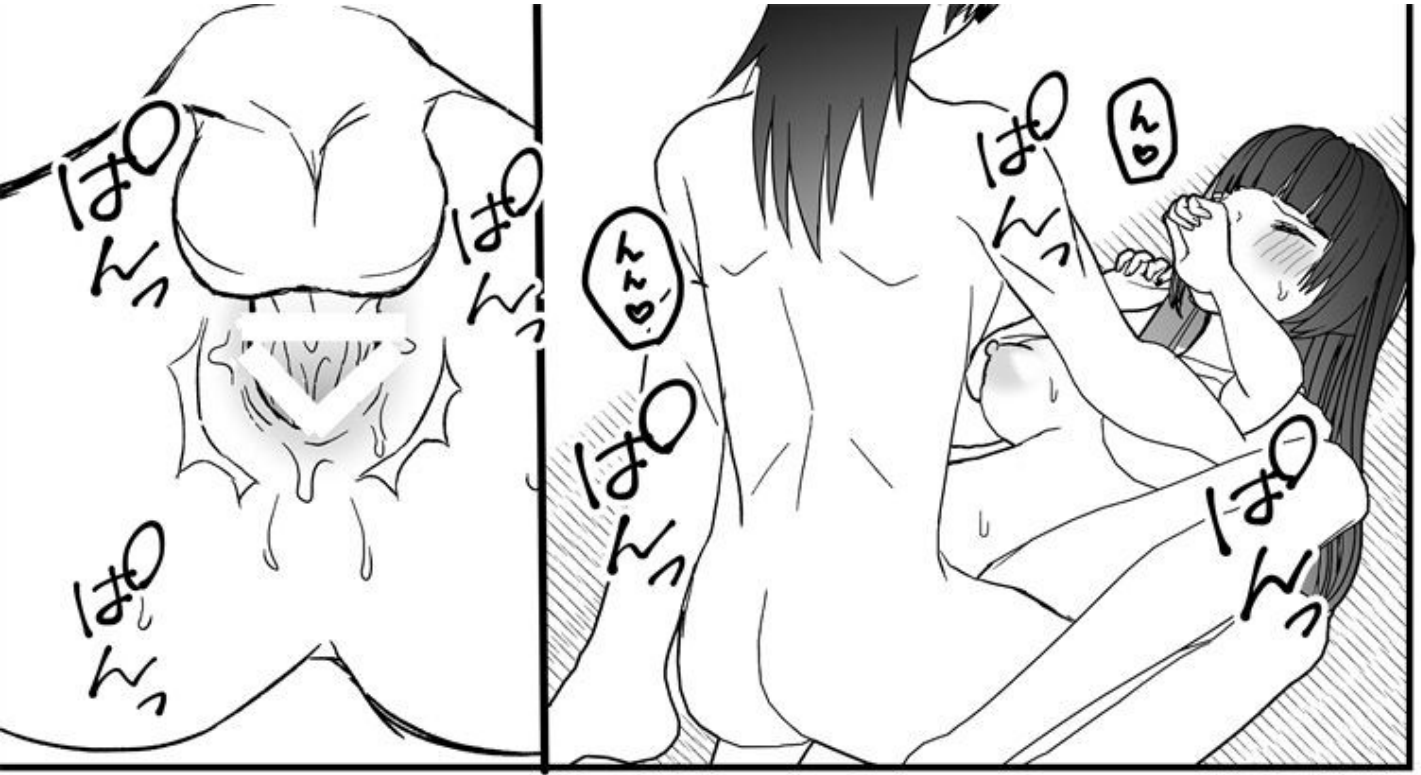


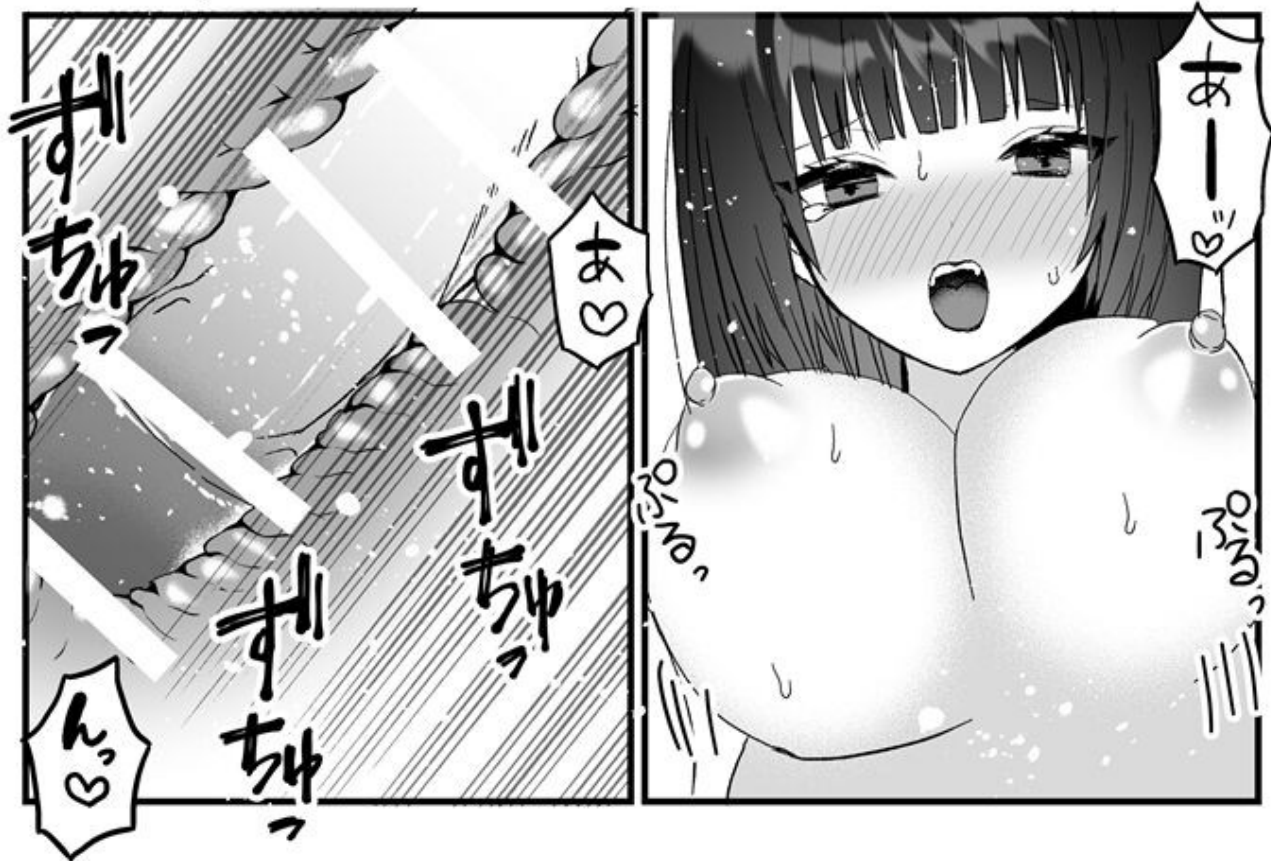
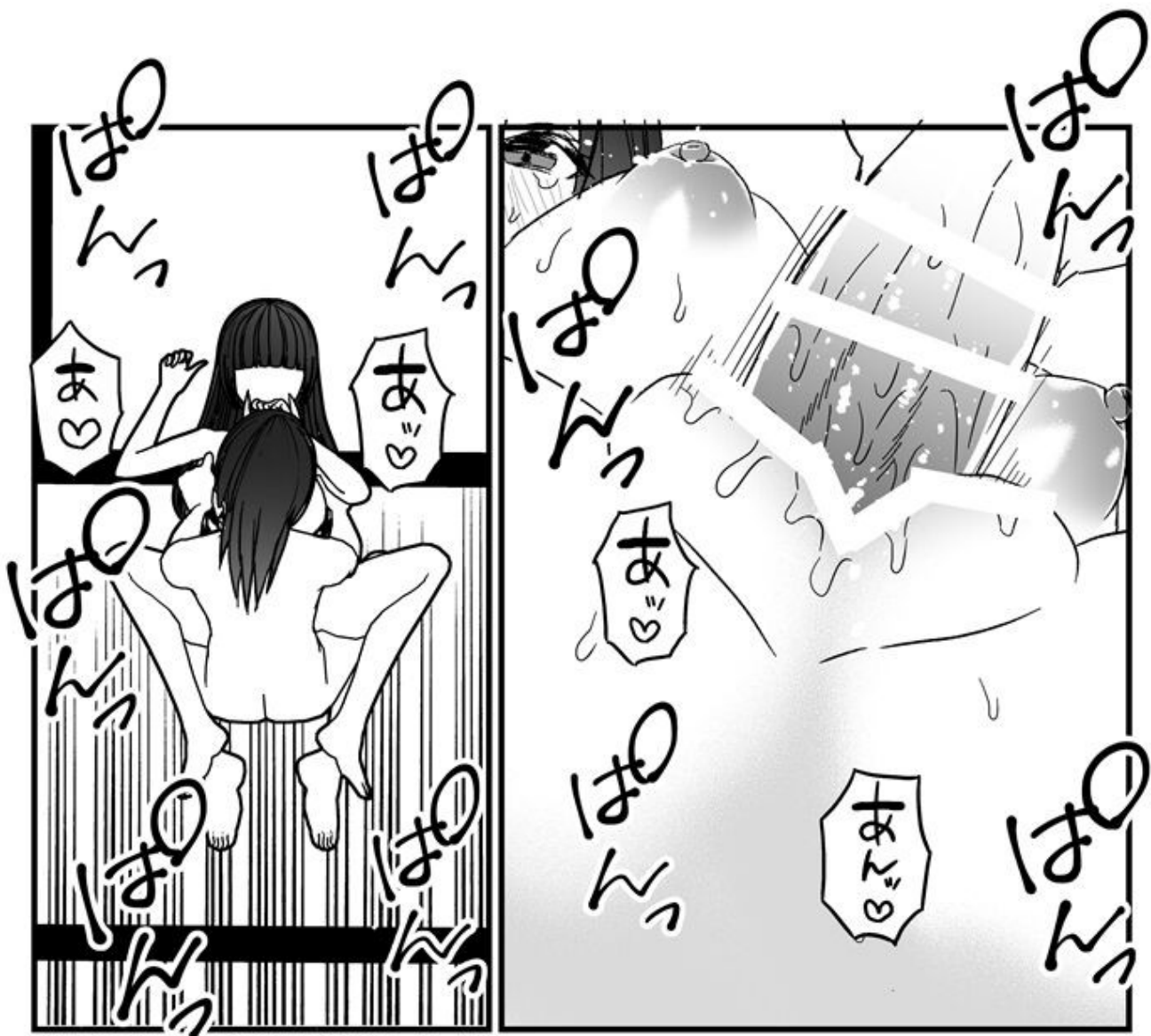










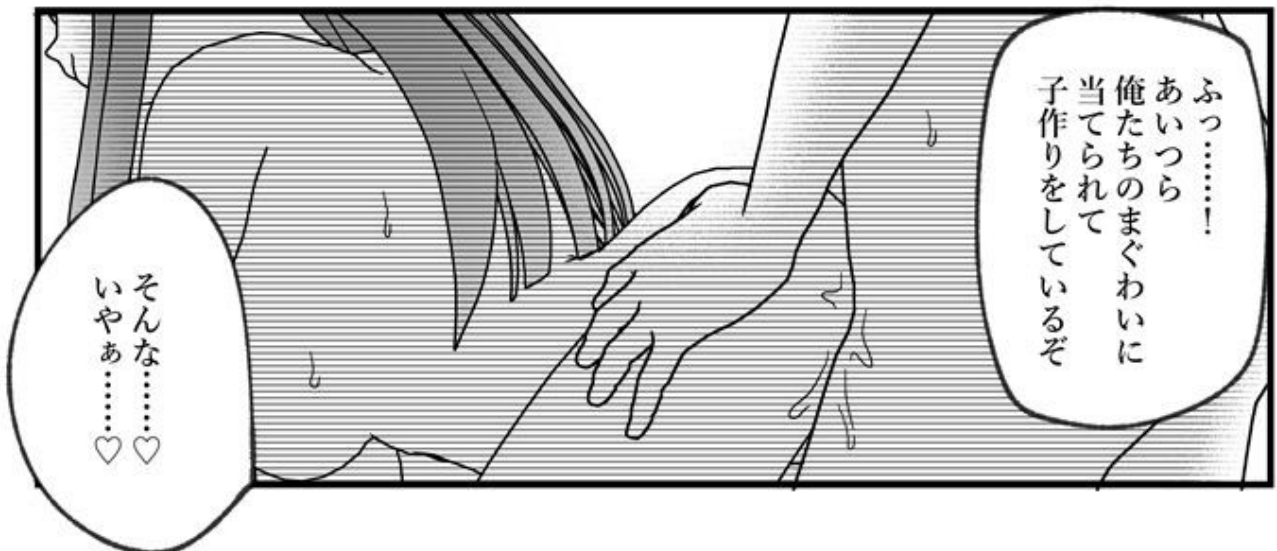
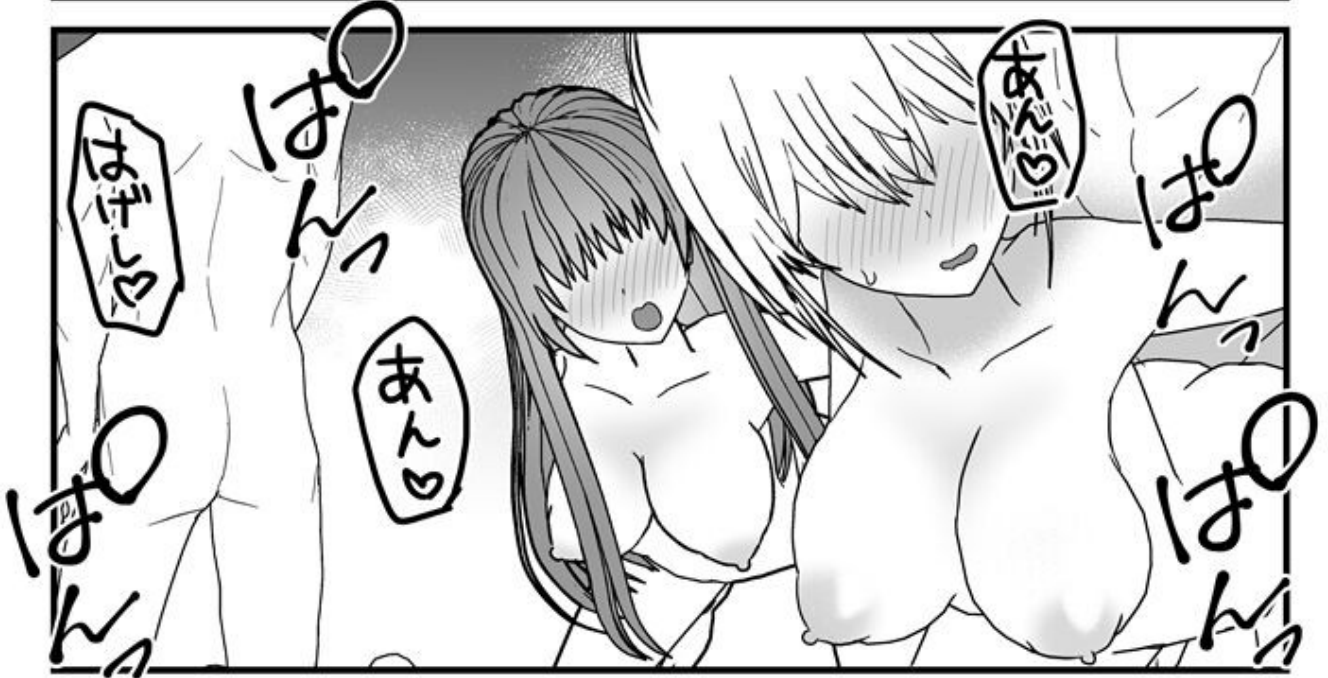




楓  
周りを  
見て  
みろ

え？







嫌なのか？  
その割には  
まんこがきゅっと  
しまったな



おっほっほ  
おっほっほ  
おっほっほ  
おっほっほ  
おっほっほ  
おっほっほ  
おっほっほ  
おっほっほ  
おっほっほ  
おっほっほ







赤ちゃんできちやう……♡





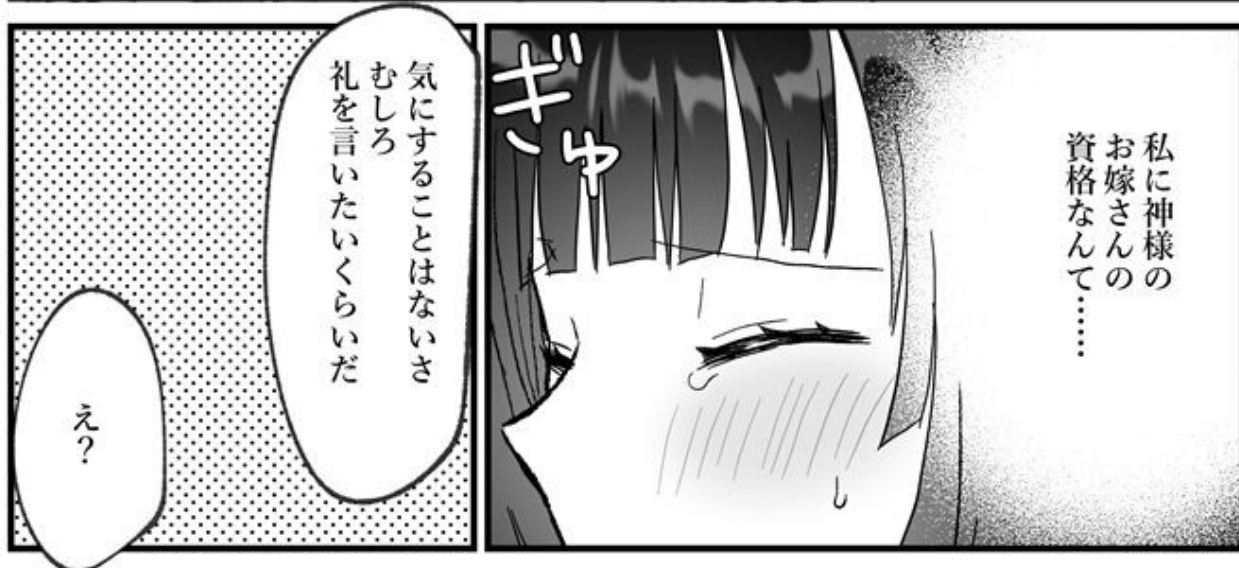
ほ  
ち  
っ



ここは……  
鬼神様の館……？



目が覚めたのか？

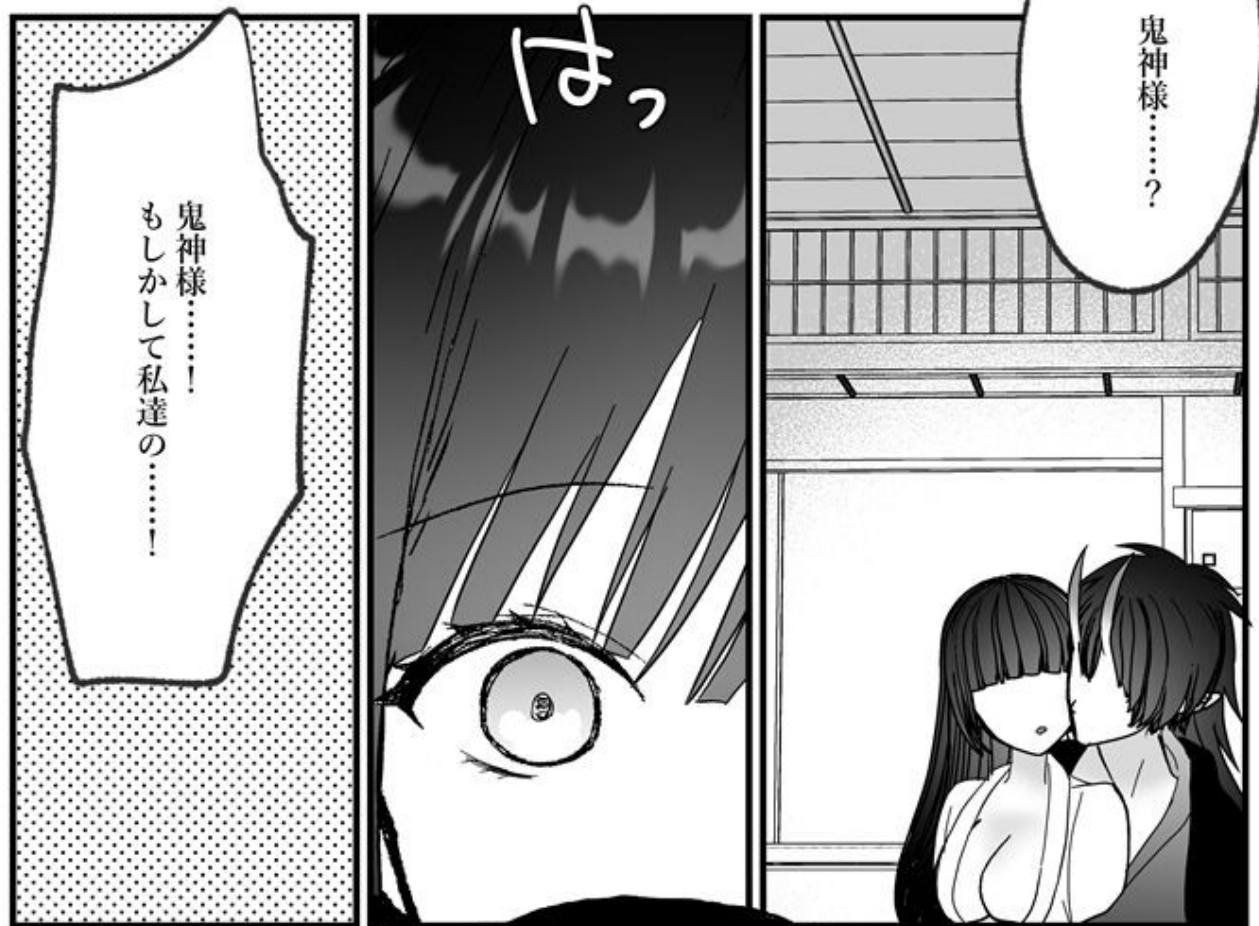




お前のおかげで  
俺は長年  
待ち望んでいたものを  
手に入れることが  
できたからな



ありがとうございます  
楓




あぁ  
そうだ  
やや子だ

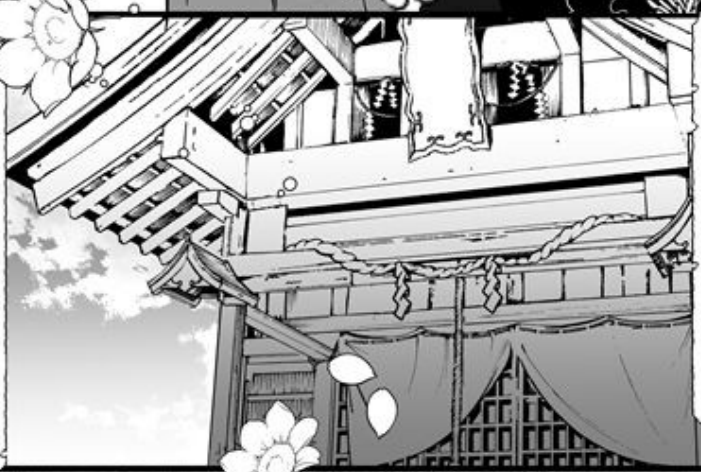


鬼神様……  
大好きです

ああ  
俺もだ  
愛しているぞ、楓



最初は恐ろしいと  
思っていたのに  
私はいつの間にか  
鬼神様のことを  
愛してしまいました



次の年  
村中にたくさんの  
新しい命が  
芽吹くことになり

この奇跡に  
村中は歓喜に包まれ  
鬼神信仰は  
さらに確かなもの  
になりました